令和
6
年度版

ことばのきまり

3

愛知教育文化振興会
三河教育研究会

見本

もくじ

Ⅰ 文法の復習
一 言葉の単位・単語の分類 …… 2 教師用へ
(一) 文 …… 2 教師用へ
(二) 文節 …… 2 教師用へ
(三) 単語 …… 3 教師用へ
二 文の成分 …… 14 教師用へ
(一) 文節どうしの関係 …… 14 教師用へ
(二) 文の成分 …… 15 教師用へ
三 まぎらわしい品詞の識別 …… 21 教師用へ
Ⅱ 言葉の学習
一 類義語・対義語・多義語 …… 33 教師用へ
(一) 類義語 …… 33 教師用へ
(二) 対義語 …… 33 教師用へ
(三) 多義語 …… 33 教師用へ
二 敬語 …… 34 教師用へ
(一) 丁寧語 …… 34 教師用へ
(二) 尊敬語 …… 34 教師用へ
(三) 謙譲語 …… 34 教師用へ
三 和語・漢語・外来語 …… 36 教師用へ
(一) 和語 …… 36 教師用へ
(二) 漢語 …… 36 教師用へ
(三) 外来語 …… 36 教師用へ
四 慣用句 …… 37 教師用へ
五 故事成語 …… 38 教師用へ
六 ことわざ …… 39 教師用へ
Ⅲ 文語のきまり
一 歴史的仮名遣い …… 40 教師用へ
二 古語のいろいろ …… 41 教師用へ
三 係り結び …… 42 教師用へ

「ことばのきまり」の特色と使い方

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで学習を進めていきましょう。

一 この本のしくみ

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。

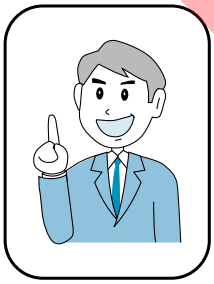
(一) 例を示して説明するところ
・例文を示して説明します。
・必要に応じて、詳しく説明します。

(二) 学習を確かめよう
・解説を受けて、基本的な問題を解きます。

(三) 練習問題に取り組もう
① 基本問題をさらに解き、学習の定着を図ります。
② 基本問題よりやや難しい発展問題を解きます。
※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

二 登場人物のアドバイス

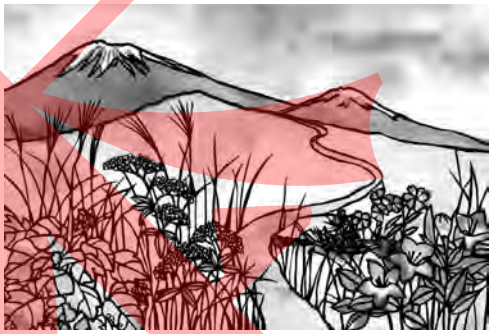
「ことばのきまり」には、次の二人の人物が登場します。それぞれのアドバイスにしたがって、自主的に学習を進めましょう。



表紙絵　碧南　稲垣尚人

見本

『ことばのきまり3』を学ぶにあたって
― 学んだ言葉の力を生かそう ―



『ことばのきまり3』では、『ことばのきまり1』と『ことばのきまり2』で学んだ文法の知識をもとに、言葉についての思考力、判断力、表現力等を、基礎や基本、応用の問題を通して学習します。

Ⅰの文法の復習では、それぞれの言葉の単位と単語について、総復習します。

Ⅱの言葉の学習では、「類義語・対義語・多義語」と「敬語」と「和語・漢語・外来語」などについて、誤用の多い例題も交えながら、重要点を確認します。

Ⅲの文語のきまりでは、古語と現代語の違いを考え、古人の鋭い感性に触れながら、歴史的仮名遣いや係り結びといった文語のきまりを学んでいきます。

我々は変化の激しい時代に生きています。そして、過去との大きな違いとして、途方もなく無数の、会ったことのない人に、自分の言葉を届けることのできるツールを手にしています。これからを生きるみなさんには、人を誹謗中傷するような言葉ではなく、つらいとき、苦しいときに、心の杖となるような言葉を紡ぎ、遠い未来の人々に残してほしいと思います。

若い人達の間で「マジでヤバイ」という表現を耳にするようになりました。しかし、目上の人に使うには抵抗がありませんか。それは、「マジ」はまじめの略語、「ヤバ」は危険なさまを表すときなどに使う隠語であり、無意識に正しくないと思っているからです。言葉は日々変化しています。ことばのきまりで学んだ力を生かし、確かで優れた言葉を学習や生活の中で使っていきましょう。

見本

目次へ戻る

Ⅰ　文法の復習

一　言葉の単位・単語の分類

(一)　文

文…いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまり。

文の区切りは、文字で書く場合は「。（句点）」で示すのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

(二)　文節

文節…発音や意味のうえで、不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。

文は全て一つ以上の文節からできているので、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

一つの文節は、一つの自立語と、それに続く付属語で構成されています。（自立語と付属語についてはＰ３参照）

（例）　母は（自付）　真っ白な（自）　ハンカチを（自付）　まぶたに（自付）　当てました（自付付）。

学習のねらい

◇　一、二年生で学習した内容を復習する。
◇　学んだ内容を自分の表現に役立てる。

1　次の文の文節の区切り方で、正しいものを選んで記号で答えなさい。

(1)　この土地に根を下ろそうとしている。
ア　この　土地に　根を　下ろそうと　している。
イ　この土地に　根を　下ろそうと　して　いる。
ウ　この　土地に　根を　下ろそうと　して　いる。
（　　）

(2)　時間は矢のように過ぎていった。
ア　時間は　矢の　ように　過ぎて　いった。
イ　時間は　矢のように　過ぎて　いった。
ウ　時間は　矢のように　過ぎて　いっ　た。
（　　）

(3)　あれはいったいなんだったのだろう。
ア　あれは　いったい　なんだったのだろう。
イ　あれは　いったい　なんだった　のだろう。
ウ　あれは　いったい　なんだったの　だろう。
（　　）

(4)　このことはあまり話したくないものだ。
ア　この　ことは　あまり　話したく　ない　ものだ。
イ　この　ことは　あまり　話したくない　ものだ。
ウ　このことは　あまり　話したく　ない　ものだ。
（　　）

見本

目次へ戻る

(三) 単語

単語…文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるところまで区切った言葉の最小単位。

P2の例文を単語に分けると、次のようになります。

母　は　真っ白な　ハンカチ　を　まぶた　に　当て　ました。

①　自立語……それだけで文節を作ることのできる単語。

例文では、**母　真っ白な　ハンカチ　まぶた　当て**

自立語は一文節に必ず一つあり、いつも文節の頭にきます。

②　付属語……それだけでは文節を作ることのできない単語。

例文では、**は　を　に　まし　た**

付属語は一文節にない場合も、二つ以上ある場合もあります。

品詞分類表

（品詞）

- **単語**
  - **自立語**
    - 活用する――述語になる――（用言）
      - ウ段で終わる……**動詞**
      - 「い」で終わる……**形容詞**
      - 「だ」「です」で終わる……**形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言）……**名詞**
      - 主語にならない
        - 修飾語になる
          - 主に連用修飾語になる……**副詞**
          - 連体修飾語になる……**連体詞**
        - 接続語になる……**接続詞**
        - 独立語になる……**感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する……**助動詞**
    - 活用しない……**助詞**

1　次の文はいくつの単語からできているか。漢数字で書きなさい。

(1)　悲しむべき厚い壁が二人の間を隔ててしまったのを感じた。

（　　）

(2)　彼は首を振るばかりだった。

（　　）

2　次の文を単語に分け、自立語と付属語に分類しなさい。

(1)　もう真冬の候であった。

自立語（　　）（　　）

付属語（　　）（　　）

(2)　そのとき何をしゃべったかは覚えていない。

自立語（　　）（　　）

付属語（　　）（　　）

(3)　私は身震いしたらしかった。

自立語（　　）（　　）

付属語（　　）（　　）

(4)　これもたまらなく悲しい。

自立語（　　）（　　）

付属語（　　）（　　）

見本

①自立語
動詞

(1) **働き……動作・変化・存在を表し、それだけで述語や修飾語になることができる。**

(2) **かたち……自立語で活用する。言い切りの形（終止形）が、ウ段の音で終わる。**

動詞の活用の種類
詳しい説明

(3) **活用の種類**

○五段活用　ア・イ・ウ・エ・オ段の五段に沿って活用する。

○上一段活用　ウ段の一つ上のイ段の音ですべてが活用する。

○下一段活用　ウ段の一つ下のエ段の音ですべてが活用する。

○カ行変格活用（カ変）＝「来る」の一語だけの特殊な活用。

○サ行変格活用（サ変）＝「する」「○○する」だけの特殊な活用。

※見分け方　・カ変「来る」、サ変「する」「○○する」
・五段、上一段、下一段は「ない」をつける。
（例）書く＋ない＝書か（ア段）ない→**五段**
着る＋ない＝着（イ段）ない→**上一段**
見せる＋ない＝見せ（エ段）ない→**下一段**

(4) **活用形……単語が活用したときにできる一つ一つの形。あとに続く形や言い切りの形により六つに分類される。**

【あとに続く言葉の例】
未然形＝ない、う、よう、せる　　連用形＝ます、た、て
させる、れる、られる
終止形＝―。、と、から　　連体形＝こと、とき、の（名詞）
仮定形＝ば　　命令形＝―。

(5) **補助動詞（形式動詞）**……動詞本来の働きはなく、上の文節を助ける。ひらがな書きが原則。
（例）走っている　しまっておく　降ってくる

1　**次の――線部①～④の動詞について、活用の種類と活用形をそれぞれ書きなさい。**

澄み切った空気と広々とした①野原、そのところどころに点在する大小の森や林を爽（さわ）やかな風が縫（ぬ）②う。山村のこの地に住まいを構③えれば、来年の今ごろ、わたしは十分すぎるほどに自然を楽しんでいる④ことだろう。

①（　　）活用（　　）形　②（　　）活用（　　）形
③（　　）活用（　　）形　④（　　）活用（　　）形

2　**次の――線部ア～オの動詞で、活用の種類が他と異なるものはどれか。記号で答えなさい。**

マグロは海で泳ぎ（ア）ながら寝ます。泳いでいないと息ができない（イ）体の仕組みになっていて（ウ）、止まると（エ）死ん（オ）でしまうのです。

（　　）

3　**次の――線部ア～オの動詞で、活用形が他と異なるものはどれか。記号で答えなさい。**

自分が何を持っ（ア）ているのか、確認（イ）しましょう。引っ越してきた（ウ）ときのまま開けていない（エ）ダンボール。中身のわからない箱。どんどん開き（オ）、いらないものは処分しましょう。

（　　）

見本

形容詞

(1) **働き……事物の状態や性質を表し、述語や修飾語になる。**

(2) **かたち……自立語で活用する。**
言い切りの形（終止形）が「――い」で終わる。
・今年の　夏は　暑い。
・母は　とても　優しい。

(3) **活用の種類……一種類だけ。**

活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
基本形（主な語幹／続き方）	―う	―た ―ない ―なる	―。	―とき ―ので	―ば	―。
明るい（明る）	かろ	かっ く う	い	い	けれ	○

(4) **活用形……動詞と同様に、あとに続く形や言い切りの形により五つに分類される。（命令形はない）**

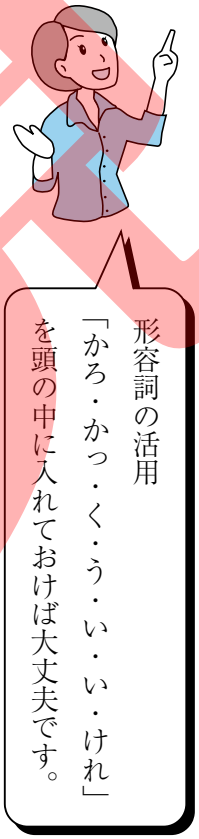
(5) **補助形容詞**……形容詞本来の働きはなく、上の文節を助け意味を添える役割だけをもった形容詞。
（形式形容詞）
ひらがな書きが原則。
（例）時間が　ほしい。（形容詞）
自転車を　買って　ほしい。（補助形容詞）

(6) **音便（おんびん）……連用形**「――く」の下に「ございます・存じます」のような丁寧な表現がつながっていく場合に「――う」の形に発音上の変化が起きる。これを**ウ音便**という。
（例）早く　＋　ございます　→　はようございます
新しく　＋　ございます　→　あたらしゅうございます

1　**次の――線部①～⑧の形容詞の活用形を書きなさい。**

(1) 暑い①中を出かけるのかと思うと、実に気が重い②。
(2) 太陽の光がなければ③、いくら暖かく④ても植物は育たない。
(3) 若い⑤人たちの話を聞くのは、きっと楽しかろ⑥う。
(4) 行儀が悪い⑦と早速（さっそく）しかられた。
(5) 子どもの小さい⑧手を引いて、公園を歩く。

①（　　）②（　　）③（　　）④（　　）
⑤（　　）⑥（　　）⑦（　　）⑧（　　）



2　**次の文の――線を引いた語のうち、補助形容詞（形式形容詞）はどれか。記号に○を付けなさい。**

(1)
ア　思ったより恐ろしくない。
イ　机の上には鉛筆がない。
ウ　君がそれほど反対するなら、僕は行かない。

(2)
ア　悪いところを注意してくれる友達がほしい。
イ　悪いところははっきり注意してほしい。

見本

形容動詞

(1) 働き……事物の状態や性質を表し、述語や修飾語になる。

(2) かたち……自立語で活用する。

言い切りの形（終止形）が「――だ」で終わる。

（丁寧な言い方では「です」で終わる）

名詞に続く形が「な」になる。

・彼の　話し方は　とても　なめらかだ。

・今日も　みんな　元気だ。

(3) 活用の種類……一種類だけ。

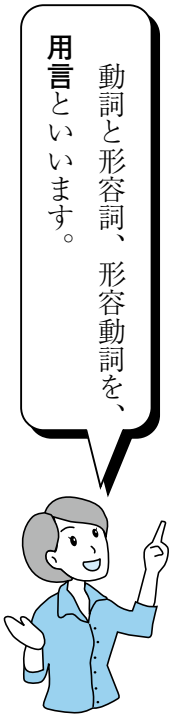
活用形	主な続き方／語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
基本形							
静かだ	静か	だろ	だっ／で／に	だ	な	なら	○
静かです	静か	でしょ	でし	です	（です）	○	○

(4) 活用形……動詞と同様に、あとに続く形や言い切りの形により五つに分類される。（命令形はない）

※「名詞＋だ（断定の助動詞）」と区別をしましょう。

彼は僕に親切だ。→ 形容動詞

彼は僕の親友だ。→ 名詞＋だ（断定の助動詞）



見本

1 次の――線部①～④の形容動詞の終止形を書きなさい。

(1) 二人を乗せた船は静かに港を出て行った。①（　　）

(2) 彼女は真面目な人柄で多くの人から好かれている。②（　　）

(3) 明日の海は、穏やかでしょう。③（　　）

(4) 彼は常に積極的で、好奇心に満ちていた。④（　　）

2 次の――線部①～④の形容動詞の活用形を書きなさい。

(1) 日本も日本人もみじめな時代があった。①（　　）

(2) 彼らが真剣ならば、決勝進出は簡単だろう。②（　　）③（　　）

(3) 叔父はとても、元気でした。④（　　）

3 次の――線部が形容動詞であるものには○を、そうでないものには品詞名を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) あれは僕の建てたアパートだ。（　　）

(2) 彼女はああ見えても結構のんきだ。（　　）

(3) 夜明けの海は波がとても穏やかだ。（　　）

(4) 彼女は、ユリの花のようだ。（　　）

(5) 昨日、とても面白い本を読んだ。（　　）

名詞

(1) **働き……主として「生き物」「物」や「事柄」の名前を表す。**

「が」「は」「も」などをともない主語になる。

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

(3) **種類**

① **普通名詞**＝物事一般の名を表す。（黒板、姉、風　など）

② **代名詞**
- **人称代名詞**＝人を指し示す。（わたし、彼女　など）
- **指示代名詞**＝物事や場所などを指し示す。（これ、そこ、あちら　など）

③ **固有名詞**＝人名・地名・国名・書名など、特定の事物の名を表す。（田中さん、岡崎市、日本　など）

④ **数詞**＝数量や順序を表す。（八月、一週間、二度　など）

⑤ **形式名詞**＝本来の意味が薄れて、常に連体修飾語に付いて使われる。ひらがな書きが原則。（着いたところ、来るはず、行ったほう　など）

名詞には、次のような成り立ちによってできたものもある。

① **転成名詞**　他の品詞から名詞に変わったもの

帰る（動詞）　学校からの帰りだ。

近い（形容詞）　この近くにいる。

寒い（形容詞）　寒さが身にしみる。

真面目だ（形容動詞）　彼の真面目さは評判である。

② **複合名詞**　二つ以上の単語が結びついてできたもの

秋（名詞）＋風（名詞）＝**秋風**　山（名詞）＋登る（動詞）＝**山登り**

1　**次の――線部の名詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 十二月に入ると寒くなる。（　　）

(2) 豊田市に転居してきた。（　　）

(3) 机を持ってきて。（　　）

(4) どれがいいですか。（　　）

(5) 決めることがあったはずだ。（　　）

ア　普通名詞	イ　固有名詞	ウ　数詞
エ　形式名詞	オ　代名詞	

2　**次の文の転成名詞に――線を引きなさい。**

(1) 川の流れがゆるやかになった。

(2) 先生の手の動きをよく見て歌った。

(3) この夏の暑さは体にこたえた。

(4) 彼は遠くへ行くつもりだった。

(5) 自然の豊かさがふるさとを思い出させる。

(6) 彼の穏やかさに救われた。

3　**次の文の複合名詞に――線を引きなさい。**

(1) 机の上に走り書きのメモがあった。

(2) 近道を急いで走ったので、試合に間に合った。

見本

副詞

(1) **働き……主として用言を修飾し、物事を詳しくする。**
・牛がのんびりと歩いている。　・少し待ってください。
※用言以外のものを修飾することもある。
・今日は　とても　たくさん　釣れた。（副詞を修飾）
・すぐ　先の　アパートへ　引っ越した。（名詞を修飾）

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

(3) **種類……働きのうえから三種類に分類される。**
① **状態の副詞**（「どのように」という状態を表す）
・洪水はたちまち家を流した。
・花びらがひらひらと散っている。
※擬声語・擬音語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれる。
② **程度の副詞**（「どのくらい」という程度を表す）
・もっと速く走ろう。　・ずいぶん多く集まったね。
③ **呼応の副詞**（下に決まった言い方がくる）
・まるで海のような湖だ。　・私にはその意味が全然わからない。
※呼応の副詞は、**陳述**（ちんじゅつ）**の副詞**とも呼ばれる。

連体詞

(1) **働き……すぐ下の体言（名詞）を修飾し、物事を詳しくする。**
・ある朝、大きな船が港を出て行った。
・いろんな花が咲いている。

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

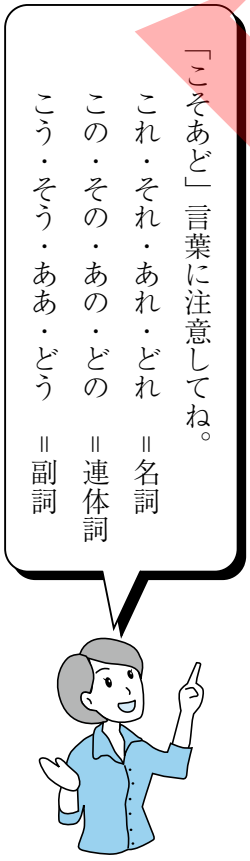
1 **次の文から副詞を抜き出し、下の（　）の中に書きなさい。**
(1) 雨があがって、すっかり晴れた。（　　）
(2) どうしたらいいのだろうか。（　　）
(3) 打球がぐんぐん伸びた。（　　）
(4) きっと彼のしたことだ。（　　）

2 **次の――線部の副詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。**
(1) かりに失敗しても、私は後悔はしない。（　　）
(2) 自分の思っていることをはっきり言うことが必要だ。（　　）
(3) キャンプ場では、たくさん星が見られる。（　　）

ア　状態の副詞　　イ　程度の副詞　　ウ　呼応の副詞

3 **次の文から連体詞を抜き出し、下の（　）の中に書きなさい。**
(1) 今日はとんだ目にあってしまった。（　　）
(2) あらゆる場合を想定して訓練すべきだ。（　　）
(3) これくらいなら、たいしたけがではない。（　　）

4 **次の――線部の言葉の品詞名を漢字で書きなさい。**
(1) あのお店は何を売っているのですか。（　　）
(2) あれは日本一高い富士山だ。（　　）
(3) ああしたことはよくある。（　　）



見本

接続詞

(1) 働き……単語と単語、文節と文節、文と文などをつなぐ。

(2) かたち……自立語で活用しない。

(3) 種類

種類	働き	接続詞
順接	前に述べたことが、後に述べることの原因となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆接	前に述べたことには逆になることが後にくる。	しかし・だが・けれども・だけど・でも・ところが・が・それでも
並列・累加（るいか）	前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	すなわち・ただし・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに

1 次の文の（　）に適する語をあとの□から選び、書きなさい。

(1) マラソンはきつい。（　　）、走ったあとの気分は実にいい。

(2) 手紙（　　）電話で連絡してください。

(3) 試合に負けた。（　　）、練習不足だったからだ。

(4) 体言とは、（　　）、名詞のことである。

それで　つまり　または　さて　しかし
なぜなら　すると　むしろ

2 次の文の接続詞に――線を引き、その種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。（　　）

(2) 小学生および中学生を対象にする。（　　）

(3) こうなったのも、つまり、君が悪いからだ。（　　）

(4) 今日は一日中雨だ。しかし、試合は続行する。（　　）

(5) やっと着いた。さて、弁当を食べよう。（　　）

(6) ボールペン、または、鉛筆を使いなさい。（　　）

ア 順接　イ 逆接　ウ 並列・累加（るいか）
エ 対比・選択　オ 説明・補足　カ 転換

3 次の――線部が接続詞であるものには○を、そうでないものには品詞名を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) A 納豆はおいしい。また、栄養もある。（　　）
B 今日もまた山を越えていく。（　　）

(2) A すぐに行った。けれど、間に合わなかった。（　　）
B すぐに行ったけれど、間に合わなかった。（　　）

(3) A そんなことをすると、しかられるよ。（　　）
B 百点か。すると、君は一番だね。（　　）

見本

感動詞

(1) 働き……感動・呼びかけ・応答などを表す。
(2) かたち……自立語で活用せず、独立語になる。
(3) 種類
① 応答……はい、うん、ええ、いえ、いいえ、はあ、いや　など
② 呼びかけ……ねえ、さあ、やあ、こら、おい、おうい　など
③ 感動……ああ、あれ、おお、おや、はて、ほう　など
④ 挨拶……おはよう、こんにちは、ありがとう　など

1 次の文の感動詞に――線を引きなさい。

(1) これ、そんなことしたら危ないよ。
(2) やあ、こんばんは。
(3) ええっ、いつそんなことをしたんだい。
(4) そらっ、そっちへ渡すぞ。
(5) ああ、なんと美しい友情だろうか。

2 次の――線部のうち、感動詞はどちらか。記号を○で囲みなさい。

(1) ア ちょっと元気がないね。
　　イ ちょっと、これでいいかい。

(2) ア それ、なあに。
　　イ それ、行くぞ。

3 次の――線部の感動詞は、あとの□のどれを表しているか。記号で答えなさい。

(1) ああ、いいお湯だったなあ。　（　　）
(2) いいえ、私は何も知りません。　（　　）
(3) おいおい、こっちを向いてくれ。　（　　）
(4) こんばんは、わたしが山田です。　（　　）

ア 応答　イ 呼びかけ　ウ 感動　エ 挨拶

4 次の文の（　）に入る適当な語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) （　　）、そのようにしたいと思います。
(2) （　　）、そうだった。忘れるところだった。
(3) （　　）、だから言ったじゃないか。
(4) （　　）、ごきげんいかがですか。

ア おお　イ ほら　ウ はい　エ こんにちは

見本

②付属語
助動詞

(1) 働き……意味を付け加えたり、話し手、書き手の気持ちや判断を表したりする。

(2) かたち……付属語で活用する。

(3) 意味による分類

① れる・られる——受け身、可能、尊敬、自発
② せる・させる——使役
③ たい・たがる——希望
④ ない・ぬ——否定（打ち消し）
⑤ う・よう——推量、意志、勧誘
⑥ た（だ）——過去、完了、存続、想起
⑦ ます——丁寧
⑧ らしい——推定
⑨ ようだ・ようです——推定、比喩
⑩ そうだ・そうです——推定・様態、伝聞
⑪ まい——否定の意志、否定の推量
⑫ だ・です——断定

1 次の——線部の「れる」「られる」は、A受け身、B可能、C自発、D尊敬のどれにあたるか。記号で答えなさい。

(1) まだ中学生だった僕には、そのように思われた。（　）
(2) 人間も自然の一部として、その中で育てられていく。（　）
(3) 君は、明日の朝五時に起きられるか。（　）
(4) 先生が階段を急いで上って来られる。（　）
(5) 長年研究された結果が今日発表される。（　）
(6) 与えられた情報と疑問から出発する。（　）

2 次の——線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 明日は、雨が降るらしい。（　）
(2) 母の病気が案じられる。（　）
(3) 私は、昨日映画を見に行った。（　）
(4) まだ試合は終わっていない。（　）
(5) 外はとても暑いそうだ。（　）

ア 過去　イ 推定　ウ 否定　エ 伝聞　オ 自発

3 次の——線部の「ない」が助動詞であるものに○をつけなさい。そうでないものには×をつけなさい。

(1) 彼には、好き嫌いといったものはない。（　）
(2) 私には彼の気持ちがわからない。（　）
(3) この家具は、それほど高価ではない。（　）
(4) 今年の夏休みはいつもより宿題が少ない。（　）

4 次の——線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 私も、リサイクルに参加しよう。（　）
(2) みんなで公園へ行こう。（　）
(3) 父もきっとわかってくれよう。（　）

ア 推量　イ 意志　ウ 勧誘

見本

5 次の例文の――線部と同じ品詞・働きのものを、あとのア～エから選び、記号に○を付けなさい。

(1) 例 明日は雨だそうだ。
ア 彼はアメリカへ行くそうだ。
イ 明日は雨になりそうだ。
ウ そうだ、すっかり忘れた。
エ もうすぐ終わりそうだ。

(2) 例 もう来るようだ。
ア 彼は仏のようだ。
イ 雨が降るようだ。
ウ 彼のように正直な人はいない。
エ 星が降るように花が散る。

(3) 例 今度はよくできたらしい。
ア そこにいるのは中学生らしい。
イ 小鳥はかわいらしい。
ウ 中学生らしい生活をする。
エ 彼らしい作品だ。

(4) 例 人があまり通らない。
ア この花は美しくない。
イ この部屋には何もない。
ウ ここからは何も見えない。
エ ないものはやれない。

(5) 例 壊れた筆箱がある。
ア 今書いたばかりです。
イ これは、君の本でしたね。
ウ 昨日、雨が降った。
エ 水のにごった流れを見る。

(6) 例 これは僕の本だ。
ア 夜は静かだ。
イ 並んだ本を見る。
ウ 僕も転んだ。
エ この前行ったところだ。

6 次の――線部の助動詞を基本形（終止形）に直しなさい。また、その意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

例 このことをよく考えたい。 （ たい ・ ア ）

(1) じゃあ、みんなでためしましょうね。 （ ・ ）
(2) 子どもじゃあるまいし、自分でやりなさい。 （ ・ ）
(3) 彼の呼びかけによって仲間を図書館に集まらせた。 （ ・ ）
(4) 健一が声をかけようとしたとき、たまたま美樹は振り向いた。 （ ・ ）
(5) それはまるで、大地震の前兆のようだった。 （ ・ ）
(6) 少年はほとんど泣きそうでした。 （ ・ ）
(7) 兄ちゃんが来られないから、おれが持ってきたんだよ。 （ ・ ）
(8) 象はいかにもうるさいらしく、小さなその目を細めていた。 （ ・ ）

ア 希望	イ 断定	ウ 推定	
エ 使役	オ 比喩	カ 否定推量	
キ 丁寧	ク 可能	ケ 意志	

見本

助詞

(1) 働き……さまざまな意味を付け加えたり、語句と語句の関係を示したりする。

(2) かたち……付属語で活用しない。

(3) 種類

① 格助詞……主として体言に付く。
（例）が、の、を、に、へ、と、より、から、で、や

② 副助詞……いろいろな語に付く。
（例）は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ　など

③ 接続助詞…主として用言や助動詞に付く。
（例）ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て　など

④ 終助詞……文や文節の終わりに付く。
（例）か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ　など

1 次の――線部の助詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 水さえあればもう安心です。　（　　）
(2) 彼はいつ帰るのだろうか。　（　　）
(3) 君の言うことは、明らかに間違っている。　（　　）
(4) 苦しいけれど、がんばるだけだ。　（　　）
(5) 試合での彼の活躍は驚くほどだ。　（　　）

ア 格助詞　イ 接続助詞　ウ 副助詞　エ 終助詞

2 次の例文の――線部と同じ働きのものをあとの文から選び、記号で答えなさい。

(1) 例 明け方、犬のほえる声で目がさめた。　（　　）
ア 私は読むのがとても苦手です。
イ 父は毎朝、町の市場へ出かけます。
ウ 西風の吹く日は、たいてい天気がよい。

(2) 例 暑中見舞いを筆で書いた。　（　　）
ア 私は、それを新聞で初めて知った。
イ きのうはかぜで休みました。
ウ 五時ですべては終了する。

(3) 例 彼は医師となって活躍した。　（　　）
ア 読むとすぐわかる。
イ 十年後に音楽家となる。
ウ 出かけようとすると大雨が降ってきた。

(4) 例 事故は信号無視から起こった。　（　　）
ア 睡眠不足から、体調を崩した。
イ 宿題をやってから遊びに行く。
ウ 牛乳からチーズを作る。

見本

目次へ戻る

二　文の成分

(一)　文節どうしの関係

(主・述の関係)　私が　行きます。

(修飾・被修飾の関係)　美しい　花が　咲いて　いる。

彼は　まだ　走る。

※修飾語……詳しく説明する語。係る文節

※被修飾語…詳しく説明される語。受ける文節

〈連体修飾語と連用修飾語の見分け方〉

連体修飾語……被修飾語が体言(名詞)の場合

連用修飾語……被修飾語が用言(動詞、形容詞、形容動詞)の場合

(接続の関係)　寒かったので　帰った。

(独立の関係)　おや、つくしだ。

文節に分けるためのポイント

○「ね」「さ」をはさんでみましょう。

○「遊んで　いる」などの補助の関係に気をつけましょう。

1　次の文に一線を引いて、文節に区切りなさい。

(1)　おばあちゃんは一人庭先で夕涼みをしました。

(2)　雀の子が、鼠(ねずみ)の鳴き真似をすると、おどるようにやってくる。

(3)　春の初めから、かぐや姫は、月を見ては嘆き悲しんでいる。

2　次の①～⑨の文節どうしの関係をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　①(　　)「おうい、虹が　見えるよ。」僕は　②(　　)大声で　③(　　)叫んだ。

(2)　犬が　彼の　④(　　)周りを　⑤(　　)ぐるぐる　回って　います。

(3)　雨だったので　⑥(　　)やめた。

(4)　静かな　⑦(　　)高原牧場の　晩秋の　⑧(　　)風景を　⑨(　　)描いた。

ア　主・述の関係　　イ　連体修飾・被修飾の関係

ウ　連用修飾・被修飾の関係　　エ　接続の関係

オ　独立の関係

見本

目次へ戻る

(二) 文の成分

①主語　僕は（主語）　勉強する。
※「が」「は」「も」を伴う場合が多い。

②述語　赤い　花が　咲いた（述語）。
※文末にくる場合が多い。

③修飾語　彼は　学校を（修飾語）　休んだ。
※ある語を詳しく説明する。

④接続語　天気は　よい。しかし（接続語）、風は　冷たい。
※「、」で切れる。

⑤独立語　はい（独立語）、承知しました。
※「、」で切れる。

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語と同じ働きをするものを連文節という。連文節となった文の成分を、主部・述部・修飾部・接続部・独立部とよぶ。

次のような関係は、常に連文節となる。

○並立の関係　彼女は　明るく　活発だ。
※二つ以上の文節が対等に並んでいる関係を並立の関係といい、一まとまりで主語・述語・修飾語と同じ働きをする。

○補助の関係　桜が　咲いて　いる。
※下の文節が上の文節の意味を補う文節どうしの関係を補助の関係といい、補助的に使われる下の文節を補助の文節という。

1 次の――線部は、どのような文の成分になっているか。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 魚を　網で　すくった。　（　　）
(2) おお、きれいな　海だ。　（　　）
(3) 宿題が　いまだに　できて　いない。　（　　）
(4) 山の　頂に　雪が　降る。　（　　）
(5) 素直だから、みんなに　好かれる。　（　　）
(6) あちこちに　芽が　出て　いる。　（　　）
(7) セミが　鳴く。そして　夏が　やって　くる。　（　　）
(8) 父は　子どもたちの　ために　働く。　（　　）
(9) はい、わかりました。　（　　）
(10) うれしい、この結果は。　（　　）

ア 主語　イ 述語　ウ 修飾語　エ 接続語　オ 独立語

見本

2 次の――線部の文の成分は何か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 少女は　とても　元気に　笑った。　（　　）
(2) 祖母の　作った　料理は　おいしい。　（　　）
(3) 私は　犬を　小屋に　入れて　おいた。　（　　）
(4) 走りたい　人、手を　挙げて　ください。　（　　）
(5) 暖かく　なって　きたので、ミツバチが　飛んで　いる。　（　　）
(6) クーラーの　使い過ぎは　よく　ない。　（　　）

ア　主部　イ　述部　ウ　修飾部　エ　接続部　オ　独立部

3 次の文の中で並立の関係にある文節を探し、例にならって――線を引きなさい。

例　君は　勉強も　運動も　できる。

(1) 赤い　大きな　夕日が　見えた。
(2) 彼は　静かで　穏やかだ。
(3) 試合に　勝つには　努力と　技術が　必要だ。
(4) 泣いたり　笑ったり　忙しい。
(5) 君と　僕が　オーディションを　受ける。

4 次の文で補助の関係になっている文節に、例にならって――線を引きなさい。

例　テニスを　やって　みる。

(1) 先輩が　つないで　くれた　たすきを　受け取る。
(2) 食事が　もう　すぐ　できる　はずだ。
(3) 僕は　ちょうど　帰る　ところだった。
(4) 大会が　終わって　しまうと　寂しい。
(5) イルカが　たくさん　泳いで　いる。

5 次の――線部は、A並立の関係、B補助の関係のどれにあたるか。どちらでもなければCを書きなさい。

(1) 私は、水泳で　新記録を　出した。　（　　）
(2) 君の　持って　いる　本は　学校の　ものですか。　（　　）
(3) 夏に　なると　心も　体も　軽やかに　なる。　（　　）
(4) 僕の　得意な　教科は　数学と　国語だ。　（　　）

見本

①主語・主部

主語・主部とは、文の中で「何が（は、も）」にあたる部分のことで、動作や状態・性質などの主体を表す。

1 次の文の――線部は述語・述部です。この述語・述部に対する主語・主部に═══線を引きなさい。

(1) 汽笛が　遠くまで　聞こえて　いる。
(2) アフリカには　広大な　砂漠が　広がって　いる。
(3) 学校から　帰って　くると　僕は　すぐに　宿題を　する。
(4) 朝しか　咲かない　朝顔は　かれんで　きれいだ。
(5) 優しく　包容力の　ある　祖母は　誰からも　好かれる。

②述語・述部

述語・述部とは、文の中で「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある」「いる」「ない」にあたる部分で、主語や主部の動作・状態・性質などを表す。

2 次の文の═══線部は主語・主部です。この主語・主部に対する述語・述部に――線を引きなさい。

(1) 私と　妹は　母の　帰りを　待った。
(2) スポーツは　私の　生きがいだ。
(3) 彼の　性格は　まじめで　おもしろい。
(4) 電車が　山あいを　走って　いる。
(5) 宿題が　たくさん　ある。

主・述の関係のあり方によって、文の種類は次のように分類される。

単文……一つの文の中に、主・述の関係が一つしかないもの。
複文……文の中のある成分に、主・述の関係が含まれ、主・述の関係が二つ以上あるもの。
重文……一つの文の中に、主・述の関係が二つ以上あり、それが並立の関係になっているもの。

【単文の例】
ひまわりが　きれいに　咲いた。

【複文の例】
ひまわりが　咲いた　花壇は　美しい。
（主部）

【重文の例】
ひまわりが　咲いて、セミが　鳴いた。

見本

1 次の文の主語・主部には═══線を、述語・述部には――線を引きなさい。

(1) いったい、こんなことをした人はだれだ。
(2) とにかく全力でやってみます。
(3) 外国から来た大きな船が停泊していた。
(4) 通り雨のおかげで暑さが和らいだ。
(5) 激しい台風が日本列島を襲った。

2 例にならって、次の文の種類を書きなさい。

例 私が描いた絵は、点描です。（複文）
(1) 私の母は、料理を作ります。（　　）
(2) 母が作った夕食は、カレーでした。（　　）
(3) 母がケーキを食べ、私はパフェを食べた。（　　）

3 次の文はどんな組み立てになっているか。あとの□から選び、記号で答えなさい。（═══線が主語・――線が述語）

(1) 水筒に水がある。（　　）
(2) 海がとても穏やかだ。（　　）
(3) これは大きな池だ。（　　）
(4) 僕は大きな声で叫んだ。（　　）

ア 何が（は）―どうする　イ 何が（は）―何だ
ウ 何が（は）―どんなだ　エ 何が（は）―ある、いる

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

夕立が止み、グラブを持った少年たちは一斉にグラウンドに駆け出した。試合再開である。「締まっていくぞ。」キャプテンの声がグラウンドに響き渡る。少年たちは互いに声をかけ合った。そして、守備についた。雨に濡れたことなどなかったかのように、夢中になって白球を追う。

(1) ―線①「駆け出した」の主語・主部を抜き出しなさい。（　　）
(2) ―線②「少年たちは」に対する述語・述部を抜き出しなさい。（　　）

見本

③修飾語・修飾部

修飾語・修飾部とは、主語（部）・述語（部）・修飾語（部）の表していることがらを詳しく説明する部分のことである。

1 次の文の修飾語・修飾部に〜〜線を引きなさい。

(1) コンサートは すでに 終わって いた。

(2) 彼は 母校の 先生に なった。

(3) 僕は 意見の 言えない 自分自身を 責めた。

【修飾部】
市長さんは、 僕の おじいさんを 表彰した。
語順を入れかえられなければ、まとめて修飾部にする。

【修飾語】
市長さんは、 市長室で おじいさんを 表彰した。
語順を入れかえても意味が変わらなければ別々の修飾語と考える。

2 次の——線部に係る修飾語・修飾部に〜〜線を引きなさい。

(1) インターネットは 僕に いろいろな 世界を 教えて くれる。

(2) 私は 修学旅行で 仲間との 思い出を 作った。

(3) その 猫は 毎日 縁側で 昼寝を して いる。

(4) 子供たちが 公園で ブランコに 乗って 遊んで いる。

(5) 走り終わった 彼は ゆっくりと 歩き始めた。

3 次の文は、それぞれどんな文の成分からできているか。文の成分を表す記号（線）を左下から選び、線を引きなさい。

例 祖父は のんびり 歩く。

(1) 僕は 覚えたばかりの 英語を 使って みた。

(2) 私は 北海道の 自然に 強く ひかれた。

(3) 彼は ひたすら 写真を 撮り続けた。

(4) 学校には 必ず 校長先生が いる。

※文の成分を表す記号（線）
主語・主部
述語・述部
修飾語・修飾部

④接続語・接続部

理由や条件を表し、あとの部分につながる一文節を接続語という。また、二文節以上で文としての構造をもち、文の中心部分で述べていることの原因・条件・つながりなどを表すものを接続部という。接続部は文の中で次のような働きをする。

① 原因・理由を表す（〜から、〜ので、〜て などの形）
② 条件を表す（〜ば、〜たら、〜なら、〜と、〜たなら などの形）
③ 逆接を表す（〜のに、〜けれども、〜ながら、〜が などの形）

1 次の文の接続語・接続部に‐‐‐線を引きなさい。

(1) 雨が降った。そして、雷が鳴った。

(2) 苦しかったが、最後まで泳いだ。

(3) 顔さえはっきり見えないのに、声が届くわけがない。

(4) どうしていいかわからないので、静かにしていた。

(5) 遠い地へ移っていった。しかし、現実は何も変わらなかった。

(6) ホタルはきれいな水にしか住めないため、環境保護が大切だ。

見本

2 **次の文の接続部に‐‐‐線を引き、その働きを例にならって答えなさい。**

例 今年の夏は暑かったので、かき氷がよく売れた。（ 原因・理由 ）

(1) じっくり聴くつもりが、眠くなってしまった。（　　）

(2) 冬になったら、スキーに行こう。（　　）

(3) 野生の動物だったので、人を警戒している。（　　）

3 **次の二つの文を、意味を変えないで一つの文にしなさい。**

(1) 勉強をする。そうすれば、成績が伸びる。

（　　）

(2) 緊張した。しかし、面接でうまく話すことができた。

（　　）

(3) 雨が止んだ。すると、虹が出た。

（　　）

(4) 全力で走った。そして、ライバルを抜いた。

（　　）

⑤独立語・独立部

提示・呼びかけ・応答・挨拶・感動など、文の他の部分と直接関係せずに独立している成分を独立語・独立部という。

1 **次の文の独立語・独立部に――線を引きなさい。**

(1) もしもし、そちらに校長先生はみえますか。

(2) 十一月二十三日、この日は「勤労感謝の日」だ。

(3) 山田君と田中君、ちょっと来なさい。

(4) さあ、歩きだそう。

(5) いいえ、母は外出中です。

(6) よし、その計画で進めよう。

(7) 合格の瞬間、この日を夢見ていた。

(8) 生徒諸君、今が大切な時です。

(9) 久しぶり、元気ですか。

(10) やった、あたった。よし、今だ。

2 **次の文の――線部①～⑲の文の成分をあとの□から選び、（　）の中に記号で答えなさい。**

(1) ①（　　）真っ赤に染まった夕焼け空を、②（　　）赤とんぼが ③（　　）群れをなして ④（　　）飛んでいる。

(2) ⑤（　　）澄みわたった高原の空気、⑥（　　）これこそ ⑦（　　）一番の栄養だ。

(3) ⑧（　　）何度もやめようと思った。⑨（　　）しかし、思いとどまった。

(4) ⑩（　　）太陽の光をたくさん浴びた野菜が ⑪（　　）すくすくと ⑫（　　）育っている。

(5) ⑬（　　）大きくなったね、⑭（　　）祖父母は ⑮（　　）笑顔を ⑯（　　）向けた。

(6) ⑰（　　）期限が迫っていたので、⑱（　　）慌てて ⑲（　　）取り組んだ。

ア 主語	イ 主部	ウ 述語	エ 述部
オ 修飾語	カ 修飾部	キ 接続語	ク 接続部
ケ 独立語	コ 独立部		

見本

目次へ戻る

三　まぎらわしい品詞の識別

「ない」の識別

・むずかしくてよくわからない。　○（ぬ）　助動詞（打ち消し）
・彼女は、最近元気がない。　×（ぬ）　形容詞
・それほどは長くない。　補助形容詞（形式形容詞）
・参加人数が少ない。　形容詞の一部

「ない」には、打ち消しの助動詞と形容詞とがある。
〈識別の仕方〉
① 助動詞……「ない」を「ぬ」に置き換えることができる。
② 形容詞……「ない」の直前に「が・は・も」を入れることができる。

「らしい」の識別

・向こうにいるのは、僕の母らしい。　助動詞（根拠のある推定）
・彼女は、おしとやかでとても女らしい。　形容詞の一部

「らしい」には、根拠のある推定の助動詞と形容詞の一部とがある。
〈識別の仕方〉
① 助動詞……「どうやら～らしい」という意味になる。
② 形容詞の語尾……「いかにも～らしい」という意味になる。

まぎらわしい品詞の識別
練習問題

1 次の――線部の「ない」と同じ品詞・働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　私には時間的な余裕がない。　（　　）

ア　これは、私のおさないころの写真です。
イ　彼の意見は、正しくない。
ウ　今日は、遊ぶ時間がない。
エ　私は、もう二度と遅刻しないと心に決めた。

「～しない」の場合は、「し」を「せ」にすると、「～せぬ」となり、「ぬ」で置き換えられます。したがって、この場合の「ない」は、助動詞となります。

2 次の――線部の「らしい」と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　僕は、自分らしい道を歩んでいこうと決心した。　（　　）

ア　この空の様子では、明日は雨になるらしい。
イ　向こうにいるおばあさんは、道に迷っているらしい。
ウ　彼女は、中学生らしい、さわやかな態度であった。

見本

「で」の識別

・わたしは岡崎市**で**生まれました。（体言につく）**格助詞**
・公園で子供たちが遊ん**で**いる。（補助の関係を作る）**接続助詞**
・あれは教科書**で**、これは問題集です。（「～だ」と断定することができる）**助動詞（断定）**
・海はとても穏やか**で**、静かだった。（「～な」に活用できる）**形容動詞の語尾**

「れる・られる」の識別

・外国人から道を聞か**れる**。**助動詞（受け身）**
・私はどんな野菜でも食べ**られる**。**助動詞（可能）**
・先生が教室に来**られる**。**助動詞（尊敬）**
・小学校のことが思い出さ**れる**。**助動詞（自発）**

「れる・られる」は助動詞で、**受け身、可能、尊敬、自発**の意味がある。

〈識別の仕方〉
① 受け身……「～に～される」という意味になる。
② 可能……「～することができる」と置き換えられる。
③ 尊敬……動作の主語が尊敬すべき人物である。
④ 自発……「自然に～」という意味が含まれる。

3 **次の――線部の「で」と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 風船がふくらんできた。（　　）
(2) 自分の部屋でごろごろしている。（　　）
(3) 今日は五日で、水曜日です。（　　）
(4) その出来事は愉快で、わたしは笑ってしまった。（　　）

ア 私は今、本を読んでいます。
イ これは国語の教科書である。
ウ その風景はとてもきれいであった。
エ 私は学校で勉強します。

4 **次の――線部の「られる」と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。**

例 この美しい海をいつまで見られるのだろう。（　　）

ア 人に見られると手が震えてしまう。
イ 市長さんが記念樹を植えられる。
ウ この高さなら、弟には無理だが僕には降りられる。
エ 考えまいとしても、母のことばかりが案じられる。

見本

「ようだ」の識別

・どうやら、私がまちがっていた**ようだ**。　**助動詞（推定）**
・今日の暑さは夏の**ようだ**。　**助動詞（比喩）**

「ようだ」は助動詞で、**推定、比喩**の意味がある。
〈識別の仕方〉
① 推定……「どうやら～のようだ」という意味になる。
② 比喩……「まるで～のようだ」という意味になる。

「そうだ」の識別

・明日は、雨が降り**そうだ**。　**助動詞（推定・様態）**
・明日は、雨が降る**そうだ**。　**助動詞（伝聞）**

「そうだ」は助動詞で、**推定・様態**と**伝聞**がある。
〈識別の仕方〉
① 推定・様態……「おそらく～だ」「～という様子だ」という意味になる。
　連用形に続く。
　形容詞・形容動詞の場合は語幹に続く。
② 伝聞……「～という話だ」という意味になる。
　終止形に続く。

5 **次の――線部の言葉と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。ただし、一つとは限らない。**

(1) 星が、プラチナのように光っていた。　（　　）
(2) 彼も昨日のニュースを見たようだ。　（　　）

ア 同級会にはたくさんの人が来るようだ。
イ 彼女は、うさぎのように跳ね回った。
ウ 私は、兄のような人になりたい。
エ 彼の話は嘘ではないようだ。

6 **次の――線部の「そうだ」の働きは、ア推定・様態、イ伝聞のどちらか。記号で答えなさい。**

(1) 彼は来年、海外へ旅立つそうだ。　（　　）
(2) 遠くの山が見えそうだ。　（　　）
(3) 彼女ならやりそうなことだ。　（　　）
(4) 明日は、みんな学校へ行くそうだ。　（　　）
(5) あの人たちはとても楽しそうだ。　（　　）
(6) 向こうの林の中は、静かそうだ。　（　　）

見本

「ながら」の識別

・みんなで話し**ながら**帰る。　**接続助詞（同時）**
・わかっている**ながら**答えない。　**接続助詞（逆接）**
・彼は、生まれ**ながら**の天才と呼ばれた。　**接尾語（名詞の一部）**

「ながら」には、**接続助詞（同時・逆接）**と**接尾語**とがある。

〈識別の仕方〉

① 接続助詞（同時）……「ながら」の前後が並立の関係になっている。二つの動作が同時進行している。

② 接続助詞（逆接）……「ながら」の前後が逆接の関係になっている。

③ 接尾語（名詞の一部）…「生まれ」から「ながら」までが一つの単語で、分けることができない。

「の」の識別

・桜**の**（が）咲く季節も、もう近い。　**格助詞（主語を作る）**
・公園**の**中に逃げ込む。　**格助詞（連体修飾語を作る）**
・彼は、泳ぐ**の**（こと）がうまい。　**格助詞（体言の代用）**
・泣く**の**（とか）笑う**の**（とか）と忙しい。　**格助詞（並立を表す）**
・どうして泣く**の**。　**終助詞**

〈識別の仕方〉

① 格助詞（主語を作る）……「の」を「が」に置き換えることができる。

② 格助詞（連体修飾語を作る）…「の」を他の言葉に置き換えることができない。

③ 格助詞（体言の代用）……「の」を「こと・もの」に置き換えることができる。

④ 格助詞（並立を表す）……「の」を「とか」に置き換えることができる。

⑤ 終助詞……文末にある。

7 **次の――線部の「ながら」の意味や働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 知っていながら、知らん顔をする。（　　）
(2) テレビを見ながら、勉強をしていた。（　　）
(3) 昔ながらの姿をとどめる。（　　）
(4) 食事をしながら新聞を読む。（　　）
(5) 苦しいながらも力を合わせて進んだ。（　　）
(6) 彼は、若いながらもしっかりしている。（　　）
(7) お茶を飲みながら話し合った。（　　）

ア 同時　イ 逆接　ウ 接尾語（名詞の一部）

8 **次の――線部の「の」の働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) するのしないのといつまでたっても決まらない。（　　）
(2) 絶対に起きることのない現象です。（　　）
(3) 目的地へ向かう途中の出来事です。（　　）
(4) ここにあるのは、私の筆箱です。（　　）

ア 主語を作る　イ 連体修飾語を作る
ウ 体言の代用　エ 並立を表す

見本

練習問題に取り組もう

基本問題

1 次の――線部の「ない」のうち、品詞が異なるものを一つ記号で選び、その品詞名を答えなさい。

ア　水道の水が出ない。
イ　僕は食欲がない。
ウ　心配しないでください。
エ　話の筋が通らない。

記号〔　　〕　品詞名〔　　〕

2 次の例文の――線部の助動詞と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　病気の母のことが気遣われる。　（　　）

ア　朝早く兄に起こされる。
イ　図書館までは一人でも行かれる。
ウ　海を見ると故郷のことが思い出される。
エ　お客さんが話される。

3 次の――線部「の」と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　やがて彼らは、きれいな小川のあるところに出た。　（　　）
(2)　彼女は日記を書くのが好きです。　（　　）
(3)　とても暑い日には風の涼しさがうれしい。　（　　）

ア　果物は私の好物です。
イ　彼は話すのが得意だ。
ウ　西の空に夕日の沈むのが見える。

4 次の各組の――線部の違いがわかるように、それぞれの品詞名を書きなさい。また、助詞の場合は種類も書きなさい。

(1)
ア　私は太宰治の作品が好きだ。　（　　）
イ　太宰治は好きだが、難解だ。　（　　）
ウ　太宰治は好きだ。が、難解だ。　（　　）

(2)
ア　よく見た。けれど、見えなかった。　（　　）
イ　よく見たけれど、見えなかった。　（　　）

見本

5 次の――線部の助動詞を、A推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

(1) 来月くらいから暑くなりそうだ。（　　）

(2) もうすぐ彼女も来るそうだ。（　　）

(3) 彼ならできそうなので、任せることにした。（　　）

6 次の――線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 彼女のようないい人はいない。（　　）

(2) 事件のことをみんな知っているようだ。（　　）

(3) この寒さは冷蔵庫の中にいるようだ。（　　）

ア　推定　　イ　比喩

7 次の――線部で推定の助動詞でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　だれも事件の起こった原因を知らないらしい。

イ　あそこに立っているのは、どうやら男らしい。

ウ　彼はとても男らしい人だ。（　　）

8 次の文の助動詞に、――線を引きなさい。

(1) 干ばつでもう一か月も雨が降らない。

(2) 昨日まで元気だったのに、今日彼は欠席だ。

(3) さあ、晴れたから外で遊ぼう。

(4) 明日は雨は降るまい。

(5) ケーキが食べたい。

9 次の文の――線部を、助動詞を使って次のア～ウの意味に合うように書き直しなさい。

(1) 明日は、暑くなる。

ア　伝聞の意味を表すように（　　）

イ　様態の意味を表すように（　　）

ウ　否定推量の意味を表すように（　　）

(2) 私は、プールに入る。

ア　丁寧の意味を表すように（　　）

イ　希望の意味を表すように（　　）

ウ　過去の意味を表すように（　　）

見本

10 次の――線部の「で」と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。

ア 港は波も静かで、船出には絶好の日和だ。

イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。

ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生気を取り戻した。

エ プールで子どもたちが泳いでいる。（　　）

11 次の――線部の単語のうち、文法上の性質が他の三つと異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

(1)

ア 静かな時間を過ごす。

イ 彼は誠実な人柄だ。

ウ 赤ちゃんの小さな手を握る。

エ 巨大ないん石が落ちた跡がある。（　　）

(2)

ア 本をじっくり読む。

イ もっと勉強しよう。

ウ そんなつもりはまったくない。

エ 息子はたくましく育った。（　　）

12 次の――線部について、Aの中に形容詞か形容動詞を書きなさい。また、活用形をあとの□から選び、Bに記号で答えなさい。

(1) 近道をすると危険だろう。　A（　　）B（　　）

(2) この問題は、中学生には易しい。　A（　　）B（　　）

(3) 詳しい資料で調べる。　A（　　）B（　　）

(4) 彼は穏やかに話し始めた。　A（　　）B（　　）

(5) 小さければ、箱に入るだろう。　A（　　）B（　　）

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形　エ 連体形　オ 仮定形

13 次の文の――線部の文節どうしの関係を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 白い雲がゆっくりと青い空に流れている。（　　）

(2) 初めてだが、試しにやってみることにした。（　　）

ア 主・述の関係　イ 修飾・被修飾の関係

ウ 補助の関係　エ 並立の関係

見本

発展問題

1　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

国際性、国際性とやかましく言われているが、①その基本は、流れるような外国語の能力やきらびやかな学芸の才気や事業のスケールの大きさなのではない。②それは、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという自覚なのである。③その典型になるのが、名もない行きずりの外国人の私に、口ごもり恥じらいながら示してくれたあの人たちの無償の愛である。求めるところのない④隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調である。そうであるとすれば、⑤一人一人の平凡な日常の中で、⑥それは試されているのだ。

（今道友信「温かいスープ」）

(1)　――線①「その」、②「それ」の品詞名をそれぞれ漢字で答えなさい。

①（　　）　②（　　）

(2)　文章中から形容詞からの転成名詞を二つ抜き出して書きなさい。

（　　）（　　）

(3)　――線③の「ある」の活用の種類と活用形を答えなさい。

種類（　　）

活用形（　　）

(4)　――線④、⑤、⑥の「の」の中で、一つだけ働きの異なるものがある。その番号を選んで書きなさい。

（　　）

2　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある晩、また「オムレツだけ。」と言ったとき、娘さんのほうが黙ってパンを二人分添えてくれた。パンは安いから二人分食べ、勘定のときパンも一人分しか要求されないので、「①パンは二人分です。」と申し出たら、人さし指をそっと唇に当て、目で笑いながら首を振り、他の客にわからないようにして②一人分しか受け取らなかった。私は何か心の温まる思いで、③「ありがとう。」と、かすれた声で言ってその店を出た。月末のオムレツの夜は、それ以後、いつも半額の二人前のパンが④あった。

（今道友信「温かいスープ」）

(1)　〜〜線ア〜エ「の」の中から働きの異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

（　　）

(2)　――線①〜④の中から他と品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

（　　）

(3)　右の文章中から、連体詞を二つ抜き出して書きなさい。

（　　）（　　）

(4)　「れ」と意味・用法の同じものを選び、記号で答えなさい。

ア　学級委員として選ばれるのにふさわしい人だ。

イ　このごろなぜか幼友達のことが思い出される。

ウ　先生が詩集を出版されることになりました。

エ　私も今日は三時には出られます。

（　　）

見本

3 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

人類はその①長い歴史の中で、「高い知性をもっているのは人間だけ」という環境を前提として生きてきました。しかし、今や「②人工知能は人間を超える知性だ。」とか、逆に「人間にはできるが人工知能にはできない。」などの、③さまざまな言説が飛び交う時代です。人工知能が社会に浸透し始めた今、それに人間がどう向き合うかが課題となります。

興味深いのは、現在、人工知能を搭載した将棋ソフトと人間の棋士との間で起きている事象が、今後の④社会の在り方を先取りしているように思えることです。そこで私は、棋士が直面している違和感から話を始めたいと思います。

一つは、人工知能の思考は過程がブラックボックスになっていることです。将棋ソフトは、過去の膨大なデータを基に、目の前の局面が有利か不利かの形勢を判断する、評価値とよばれる数値を出します。数がプラスに大きければ大きいほど有利で、マイナスに大きければ大きいほど不利となります。この評価値は⑤極めて有効に働くため、現在はプロ棋士が参考にするようになっています。しかし、膨大な情報をどのように処理してその結論に至ったのか、人間にはわからないのが現状です。社会が人工知能を受容していく中で、意志決定の過程がブラックボックスになることには、多くの人が⑥不安を覚えると思います。

もう一つは、将棋ソフトを使う棋士の間でいわれるのは、人工知能には「恐怖心がない」ということです。人工知能はただただ過去のデータを基に次の一手を⑦選ぶため、人間であれば危険を察知して不安や違和感を覚えるような手でも、平然と指してきます。私たち棋士は、そこに恐怖を感じるのです。これを、⑧例えば人工知能ロボットに置き換えてみると、どうでしょう。安心感や安定感など、人間が無意識に求める価値や倫理を共有していない相手と、安心して社会生活を営めるものでしょうか。私には正直、確信がもてません。

膨大なデータと強大な計算力で最適解を導き出す人工知能。それに対し人間は、経験から⑨つちかった「美意識」を働かせて物事を判断しているといえます。人工知能が社会のあらゆる⑩場面で意志決定に関与するようになれば、人間の「美意識」にはとても受け入れがたい判断をすることもあるでしょう。また、将棋ソフトの評価値が実はそうであるように、人工知能の判断が常に絶対的に正しいわけでもありません。つまり、私たち人間は、どこまで評価値の判断を参考にするかまで含めて、選択肢を考えていくことが必要になります。そして、このような判断力は、普段から自分で考えることでしか、養われないのです。

（羽生善治「人工知能との未来」）

(1) ――線①「その」と品詞が異なるものを一つ選び、記号を答えなさい。また、その品詞名を書きなさい。

ア とある村のはずれ　　イ いわゆる谷の奥で

ウ さる十月十五日　　エ そっと見守ること

記号（　　）

品詞名（　　）

(2) ――線②、④の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

②（　　活用　・　　形）

④（　　活用　・　　形）

(3) ――線⑥「れる」と同じ働きのものを一つ選び、記号を答えなさい。

ア 卒業文集を読んで、あのころのことが思い出された。

イ 人はすぐには変われないものだ。

ウ いつの間にか、作品が壊されてしまった。

エ 校長先生も、遠足に参加された。

（　　）

(4) ――線③・⑤・⑦・⑧・⑨・⑩の単語の品詞名を書きなさい。

③（　　）　⑤（　　）　⑦（　　）

⑧（　　）　⑨（　　）　⑩（　　）

見本

4 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

人工知能が浸透する[a]社会であっても、むしろそのような社会だからこそ、私たちは今後も自分で思考し、判断していく必要があるといえます。人工知能への違和感や不安を拭い去るのは[①]難しいことですが、このような社会の到来が[b]避けられない以上、人工知能をいわば、「仮想敵」のように位置づけてリスクを危惧するより、今後どのように対応するかを考えていくほうが現実的ではないでしょうか。

さらにいえば、人工知能は、うまく活用すれば[②]人間にとって大きな力となるはずです。将棋ソフトは人間が考えもしない[③]手を指すと述べましたが、それは、自分の視座が変わるような見方を教えてくれるということでもあります。「自分はこう思うが、人工知能はどう判断するのか。」と、あくまでセカンドオピニオンとして人工知能を使っていく道もあるでしょう。また、人工知能が出した[④]結論を基に、それが導き出された過程を分析し、自分の思考の幅を広げていく道もあるはずです。人工知能に全ての判断を委ねるのではなく、人工知能から新たな思考やものの見方をつむいでいこうとする発想のほうが、より建設的だと思います。[⑤]

実際、将棋界では既に、人工知能が提示したアイデア[⑥]を参考に新しい手が生み出されたり、そこから将棋の技術が進歩したりするケースが多く起こっています。人工知能によって人間の「美意識」そのものが[c]変わって[c]いる顕著な事例だといえるでしょう。人工知能が学習するいっぽうで、人間の側も人工知能から学ぶ。[d]人間と[d]人工知能が共に生きる[⑦]時代の、新しい関係がそこにあるように思います。

（羽生善治「人工知能との未来」）

(1) ～～線a～dの文節相互の関係を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

a（　　）　b（　　）　c（　　）　d（　　）

ア　主・述の関係　　イ　修飾・被修飾の関係
ウ　並立の関係　　エ　補助の関係

(2) ――線①「の」と同じ働きのものを選び、その記号を答えなさい。（　　）

ア　雨はやんだの。　　イ　私の鉛筆です。
ウ　怒るのは、いやだ。　　エ　暑いので、泳ぐ。

(3) ――線②「考え」は、転成名詞です。もとの語とその品詞名を書きなさい。

もとの語（　　）
品詞名（　　）

(4) ――線③「ない」と同じ働きのものを選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　曇っていて星が見えない。　　イ　今週は休みがない。
ウ　今年は雨が少ない。　　エ　昨日のけがはもう痛くない。

(5) ――線④⑤⑥⑦の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

	活用の種類	活用形
④ 広げ		
⑤ 思い		
⑥ 提示し		
⑦ 生きる		

(6) 第一段落から副詞を二つ抜き出して書きなさい。（　　）（　　）

見本

5 次の活用表の①～⑳の空欄をうめなさい。

口語動詞活用表

活用の種類		五段活用				上一段活用		下一段活用		変格活用	
	語例	行く	笑う	運ぶ	ある	生きる	似る	答える	出る	カ変	サ変
活用形	主な続き方／語幹	い	わら	はこ	あ	い	(に)	こた	(で)	来る	する
未然形	―ない・ぬ ―う・よう ―れる・られる ―せる・させる	か こ	② お	ばば ろ (ら)		き	に	え	⑧	こ	し せ ⑩
連用形	―ます ―た(だ) ―て(で)	き っ	い っ	③ び り		⑤ に		え で		き	し
終止形	―。	く	う	ぶ	る	きる	にる	える でる		くる	する
連体形	―とき ―ので	く	う	ぶ	④	きる	⑥	⑦ でる		くる	する
仮定形	―ば	① え	え	べ	れ	きれ	にれ	えれ でれ		くれ	すれ
命令形	―。	け	え	べ	(れ)	きろ	にろ	えろ でろ		⑨	しろ

口語形容詞活用表

	語例	明るい	早い	新しい
活用形	主な続き方／語幹	あかる	はや	あたらし
未然形	―う		⑪	
連用形	―た ―ない ―なる ―ございます	⑫ ⑬ ⑭ かっ く かっ く		
終止形	―。		⑮	
連体形	―とき ―ので		⑯	
仮定形	―ば		⑰	
命令形	―。	○		

口語形容動詞活用表

	語例	爽やかだ	重要だ	爽やかです	重要です
活用形	主な続き方／語幹	さわやか	じゅうよう	さわやか	じゅうよう
未然形	―う		⑱	でしょ	
連用形	―た ―ない ―なる	だっ で に		⑳	
終止形	―。	だ		です	
連体形	―とき ―ので		⑲	(です)	
仮定形	―ば	なら		○	
命令形	―。	○		○	

見本

6 **次の文の動詞に――線を引き、その活用の種類と活用形を書きなさい。**

(1) 夜もふけて、街は暗く静かだ。

活用の種類（　　）活用形（　　）

(2) 親友の弟は彼に似て、心が優しい。

活用の種類（　　）活用形（　　）

(3) 坂田君のコメントに、小山君は反応しない。

活用の種類（　　）活用形（　　）

7 **次の文から形容詞と形容動詞を一つずつ抜き出し、その活用形を書きなさい。**

例 兄に対して爽やかなイメージをもつ人がいて、私はうれしかった。

形容詞（　　）活用形（　　）

形容動詞（　　）活用形（　　）

8 **次の文の連文節に――線を引きなさい。**

(1) 校長先生は　南中の　ソフトボール部を　全校集会で　表彰した。

(2) 青い　鳥が　かごの　中で　美しく　鳴く。

9 **次の文の副詞とそれが修飾している文節を例にならって結びなさい。また、修飾されている部分の品詞名を書きなさい。**

例 カエルのことが好きな理由がはっきり　わかったようだ。

品詞（動詞・助動詞・助動詞）

(1) 十一月に半袖は少し寒い。

品詞（　　）

(2) 今日の文化祭の発表は、たいへん愉快だった。

品詞（　　）

(3) 明日小テストがあることを、ふと思い出した。

品詞（　　）

10 **次の例文と品詞の構成が同じものを選び、その記号を答えなさい。**

例 わあ愉快。

ア おお寒。　イ おや暗い。　ウ とてもおだやか。

エ 実に興味深い。　オ あらきれい。　カ おい集合。

（　　）

見本

目次へ戻る

Ⅱ 言葉の学習

一 類義語・対義語・多義語

(一) 類義語

類義語……似た意味をもつ語のグループ

類義語の熟語は、その組み立てから次の三つに分類される。

① 一字が共通のもの　例　案外＝意外　改良＝改善　続行＝継続

② 上下が逆のもの　例　習慣＝慣習　対応＝応対

③ 全体として意味が類義となっているもの

例　手段＝方法　簡単＝容易　美点＝利点＝長所

(二) 対義語

対義語……意味が反対の関係や対の関係にある二語

対義語の熟語は、その組み立てや意味によって対比する語が変わる。

例　鋭角⇔鈍角　加害⇔被害　最悪⇔最善　過疎⇔過密

拡大⇔縮小　支出⇔収入　原因⇔結果　人工⇔天然・自然

(三) 多義語

多義語……一つの語で多くの意味や用法をもつ語

例　事件が起きる。（何かが発生する。起こる。）

朝早く起きる。（眠りから覚める。）

転んでもすぐ起きる。（横になっていたものが体を起こす。）

学習のねらい

◇ 類義語・対義語・多義語を復習する。

◇ 敬語の使い方を復習する。

◇ 和語・漢語・外来語を相手や場面に応じて選んで用いる。

1 **次の言葉の対義語をあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 単純（　　）　(2) 創造（　　）　(3) 拡大（　　）

(4) 一般（　　）　(5) 客観（　　）　(6) 権利（　　）

(7) 口語（　　）　(8) 困難（　　）　(9) 苦手（　　）

ア 模倣　イ 文語　ウ 縮小　エ 特殊　オ 義務　カ 主観　キ 得意　ク 複雑　ケ 容易

2 **次の言葉の類義語をあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 欠点（　　）　(2) 材料（　　）　(3) 賛成（　　）

(4) 安全（　　）　(5) 有名（　　）　(6) 意外（　　）

(7) 進歩（　　）　(8) 方法（　　）　(9) 納得（　　）

ア 短所　イ 発達　ウ 原料　エ 案外　オ 同意　カ 手段　キ 著名　ク 了解　ケ 無事

3 **次の――線部の言葉の意味として適当なものを、あとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 竹刀で面を打つ。（　　）　(2) 先手を打つ。（　　）

(3) そばを打つ。（　　）　(4) 滝に打たれる。（　　）

(5) 彼の演技が心を打つ。（　　）

ア 雨・風・波などが物に激しく当たる。　イ 感動させる。

ウ 強くたたく。　エ 材料・素材をたたいて、その物を作り出す。

オ ある計画などを実行する。手段、方策を講じる。

見本

目次へ戻る

二　敬語

(一)　丁寧語

丁寧語……話し手（書き手）が聞き手（読み手）に対して丁寧さを表す敬語。

① **助動詞（断定）「だ」を「です」に言い換える。**
給食だ。　→　給食です。

② **助動詞（丁寧）「ます」を付ける。**
六時に起きる。　→　六時に起きます。

③ **特別に丁寧な言い方「（で）ございます」を用いる。**
これが注文の品よ。　→　これが注文の品でございます。

※美化語「お風呂」「お湯」「お菓子」「ご飯」

(二)　尊敬語

尊敬語……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**
行く・来る　→　いらっしゃる・おいでになる
いる　→　いらっしゃる・おいでになる
言う・話す　→　おっしゃる
見る　→　ご覧になる
食べる　→　召し上がる
する　→　なさる
くれる　→　くださる

② **「お（ご・御）～になる」を付け加える。**
聞く　→　お聞きになる
疲れる　→　お疲れになる

③ **助動詞（尊敬）「れる・られる」を付ける。**
思う　→　思われる
上達する　→　上達される
来る　→　来られる
受ける　→　受けられる
受けられる

動詞全般に使える形

④ **敬意を表す接頭語・接尾語を付ける。**
お宅　御社　御案内　貴校　尊父（〇〇からの）お手紙・ご意見
鈴木様　姉さん　田中君（※宛名→～会社　御中）

⑤ **名詞**
～方（かた）　あなた　どなた

(三)　謙譲語

謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例
・今すぐ行きます。→今すぐ参ります。（伺います。）
・先生に学級日誌を渡す。→先生に学級日誌をお渡しする。
・この本を借ります。→この本をお借りします。
×お父さんは家にいません。→〇父は、家におりません。

謙譲語は自分の所有物や行動、また自分の身近なものに対して使われます。身内（自分の家族、同僚）のことを他人に言う場合には、身内の者に尊敬語は使わず、謙譲語を使います。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**
行く・来る　→　伺う・参る
いる　→　おる
言う・話す　→　申す・申し上げる
見る　→　拝見する
食べる　→　いただく
もらう　→　いただく
する　→　いたす
聞く　→　伺う・承る
知る・思う　→　存じる
やる　→　あげる・差し上げる

② **「お（ご・御）～する」を付け加える。**
持つ　→　お持ちする
説明する　→　ご説明する
届ける　→　お届けする

動詞全般に使える形

③ **謙譲の意を表す接頭語・接尾語を付ける。**
粗品　拙宅　弊社　寸志　愚見　お手紙　ご意見　私ども　私め

見本

練習問題に取り組もう

1 **次の文を尊敬語を使った表現に直しなさい。**

(1) お客さんが来た。（　　）

(2) これを食べますか。（　　）

(3) 社長の言うとおりです。（　　）

(4) 先生が、賞状をくれた。（　　）

(5) あの人は、もう帰りました。（　　）

2 **次の文を謙譲語を使った表現に直しなさい。**

(1) 先生から記念品をもらいました。（　　）

(2) 「よろしく。」と父が言っていました。（　　）

(3) お父さんは会社へいらっしゃいました。（　　）

(4) 私のお兄さんがそうおっしゃいました。（　　）

3 **次の――線部の敬語の種類を書きなさい。**

(1) 先生が、ご自身でさし絵を描かれました。
①（　　）②（　　）③（　　）

(2) 俳句を研究されている大橋先生に、指導していただきます。
①（　　）②（　　）

4 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

聞き手に対し、自分が書く場合は「A」といい、先生が書く場合は「B」という。自分がへりくだる「C」が「お…する」で、人の動作を高める「D」は「お…になる」だと、一応心得たつもりでも、いざとなると混同しがちである。

ある駅で、「切符をお持ちしていない方は…」というのを聞いて、「E」ではないかと、人のまちがいには気づいても、自分が人に道を聞かれると、「あそこの交番でお聞きしてください。」と言ってしまうのだ。むろんここは「F」でないといけない。

(1) A～Dに入る適切な語を、次のア～オから選び、記号で書きなさい。

ア　お書きになる　　イ　お書きする

ウ　尊敬語　　エ　謙譲語　　オ　丁寧語

A（　　）　B（　　）　C（　　）　D（　　）

(2) E・Fに適するように、――線①・②を正しい敬語に直して書きなさい。

①（　　）ない方

②（　　）ください。

5 **次の文章の――線部の敬語は誰が・誰を敬って使ったものか。答えはあとの表に書きなさい。**

(1) 父は、「私がいたします。」と祖父に言った。

(2) 「先生が、がんばりなさいとおっしゃっていたよ。」と母が私に言いました。

	誰が	誰を
(1)		
(2)		

見本

目次へ戻る

三　和語・漢語・外来語

(一)　和語

もともと日本で使われていた語を**和語**（大和言葉）という。普通、平仮名で書かれたり、漢字の訓読みで表されたりする。

例　月・味・流れ・言い訳・誠・のんびり・とても・この・小さな・読む・明るい・うつくしい・言葉

和語は、親しみやすく意味を捉えやすいので、日常会話でよく用いられます。

(二)　漢語

漢字の音読みが使われる語を**漢語**という。漢語には、中国で作られて日本に入ってきた語と、日本で作られた語がある。

例　歓迎・発言・課程・厳格・誠実・愛・道路・選択・綺麗

漢語は抽象的な意味を表し、硬い語感をもつ傾向があります。社会制度や専門的な知識を表す語も多く、ニュースや新聞などでよく使われます。

(三)　外来語

漢語以外で外国語から日本語に取り入れられた語を**外来語**という。普通、片仮名で書かれるが、「てんぷら」「歌留多」のように平仮名や漢字で書かれる場合もある。

例　メッセージ・コミュニケーション・サービス・スピーチ・カステラ・ゴム・サイン・スタイル・トレーニング・カルテ・コップ・パン・コント・ハッピー・ラッキー

外来語は外国から入ってきた物の名前や学問の用語、新しい感覚などを表すのに使われています。

また、和語・漢語・外来語が組み合わさってできた語を**混種語**といいます。

例　模様替え（漢語＋和語）　天然ゴム（漢語＋外来語）
ガラス窓（外来語＋和語）

学習を確かめよう

1　次の例文の（　　）の中の言葉を和語・漢語・外来語にそれぞれ言い換えなさい。

(1)　例　高速道路を時速百キロの（速さ）で走る。
①　高速道路を時速百キロの（　　）で走る。↑漢語に
②　高速道路を時速百キロの（　　）で走る。↑外来語に

(2)　例　私は宇宙人からの（メッセージ）を受け取った。
①　私は宇宙人からの（　　）を受け取った。↑漢語に
②　私は宇宙人からの（　　）を受け取った。↑和語に

見本

目次へ戻る

四　慣用句

慣用句とは、二語以上の単語で構成され、その全体が元の語の意味から離れた意味を表すようになったものである。イディオムともいう。慣用句は、会話や文章上で定型句として用いられる。うまく使えるようになると表現が豊かになる。

1　次の各組の（　）には、体の一部を指す同じ漢字が入ります。漢字一字を書き、慣用句を完成させなさい。

(1)（　）を疑う・（　）を貸す・（　）をそろえる　…【　】
(2)（　）が軽い・（　）火をきる・（　）車に乗る　…【　】
(3)（　）を焼く・（　）を打つ・（　）が空く　…【　】
(4)（　）につく・（　）を折る・（　）をあかす　…【　】
(5)（　）に余る・（　）が利く・（　）が回る　…【　】

2　（　）から正しい慣用句を選び、文を完成させなさい。

(1)　丸山先生は（舌先三寸・口先三寸）の生徒を叱った。
(2)　彼女の意見はいつも的を（得て・射て）いる。
(3)　先輩は大会で雪辱を（果たし・晴らし）た。
(4)　兄は寸暇を（惜しまず・惜しんで）体を鍛えた。

3　次の慣用句の意味を、下の□からそれぞれ選び、記号を答えなさい。

(1)　力の限りを尽くして努力すること　（　）
(2)　もうどうしようもないとあきらめること　（　）
(3)　気持ちを引きしめて、人や物に接すること　（　）
(4)　意見が出尽くして結論が出る段階になること　（　）
(5)　びっくりして顔色が青ざめること　（　）
(6)　何の遠慮もなく、心からうちとけられること　（　）
(7)　物事を求める気持ちになること　（　）
(8)　分かりきっていることをさらに確かめること　（　）
(9)　いましめのために、つらい思いをさせること　（　）
(10)　じっくり話すため、向かい合って座ること　（　）

ア　襟を正す	イ　気が置けない
ウ　色を失う	エ　灸をすえる
オ　さじを投げる	カ　食指が動く
キ　だめを押す	ク　膝をつき合わせる
ケ　煮詰まる	コ　心血を注ぐ

4　次の文の（　）に合う慣用句を3の問題の選択肢から選び、記号で答えなさい。

(1)　彼は約束を何度も破るので、一度（　）必要がある。
(2)　陸上部の小島君と伊藤君はクラスでも部活動でも（　）仲だ。
(3)　難しい問題でも、すぐに（　）ことはよくない。
(4)　僕は大事な相談をするときは、彼と（　）。
(5)　先生は、クラスの合唱が上手くなるように（　）。
(6)　僕たちがリードしていた。さらに八回の（　）ホームランで勝った。
(7)　話し合いが十分に（　）と、司会者の表情が変わった。

見本

目次へ戻る

五　故事成語

中国の古典に由来し、歴史的な事実や言い伝えを基に作られた言葉を**故事成語**という。

1　次の故事にあてはまる故事成語を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

故事成語（　　）

ある国境の塞の近くに住んでいる人で、占いにたけた人がいた。あるとき、どういう訳か、この人の馬が逃げ出して異民族の地へ行ってしまった。人々が皆これを慰めると、その老人は、

「このことがきっと福となろう。」といった。

数カ月後、その逃げた馬が異民族の駿馬（しゅんめ）を連れて帰ってきた。人々が皆これを祝うと、老人は

「これは災いになるであろう。」といった。

この家によい馬が増えたので、息子が乗馬を好み、そのうちに落馬をして足の骨を折ってしまった。人々が皆これを慰めると、老人は、

「これが福となろう。」といった。

一年たつと、異民族が大挙して塞へ攻め込んできた。若者たちは弓を引き戦った。塞の近くの人は十人中九人が死んだ。ただ、この家の息子は脚が悪かったので兵役に駆り出されず、親子ともども無事だった。

このように福が禍となり、禍が福となる。その変化はとうてい明らかにすることはできず、その深さは、とても計り知れない。

ア 杞憂　イ 塞翁が馬　ウ 背水の陣　エ 大器晩成　オ 蛇足　カ 呉越同舟

2　次の□に入る漢字一字を（　）に書き、故事成語を完成させなさい。また、読み方を全てひらがなで書きなさい。

	漢字	読み方
(1) 画□点睛	（　）	（　）
(2) 竜頭□尾	（　）	（　）
(3) 蛍□の功	（　）	（　）
(4) 朝三暮□	（　）	（　）
(5) 千□一遇	（　）	（　）

3　次の故事成語の意味を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 漁夫の利　（　）
(2) 呉越同舟　（　）
(3) 五十歩百歩　（　）
(4) 羊頭狗肉　（　）
(5) 朝令暮改　（　）
(6) 助長　（　）

ア 成長を早めるつもりで、無理に力を加え、かえって害すること。
イ 助けて育てること。また、ある傾向をより著しくさせること。
ウ 似たりよったりで、たいして違いがない。本質的な相違はないこと。
エ 仲の悪いもの同士が同じ場所や境遇にいること。そういう者たちがやむを得ず協力すること。
オ 人と人とが争っている間に、第三者が利益を得てしまうこと。
カ 朝に出した法令を夕方にはもう改めること。方針などが絶えず改まって定まらぬこと。
表面と内容が一致しないことのたとえ。見せかけだけで内容が伴わないこと。

見本

目次へ戻る

六　ことわざ

古くから世間で言いならわされてきた、生活上の知恵や教訓が込められた言葉を**ことわざ**という。ことわざは、誰もが共感できるようなたとえで表されたものが多い。

1　次のことわざの意味として適切なものを、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　とびがたかを生む　（　　）
(2)　医者の不養生　（　　）
(3)　犬も歩けば棒に当たる　（　　）
(4)　えびで鯛を釣る　（　　）
(5)　雨降って地固まる　（　　）
(6)　餅は餅屋　（　　）

ア　専門家はかえって自分のことはかまわない。
イ　行動すれば、何か災いや幸せにあうものだ。
ウ　物事にはそれぞれ専門家があり、素人はとてもかなわない。
エ　平凡な親から非凡な才能の子が生まれる。
オ　わずかな元手で大きな利益を得る。
カ　悪いことなどがあったあとは、前よりかえってよくなる。

2　次のことわざの（　　）に入る言葉を書きなさい。

(1)　急がば（　　）
(2)　悪事（　　）を走る
(3)　泣き面に（　　）
(4)　知らぬが（　　）

3　次のことわざと、(1)〜(4)は同じ意味のものを、(5)〜(8)は反対の意味のものをあとの□から選び、記号で答えなさい。

同じ意味
(1)　弘法も筆の誤り　（　　）
(2)　提灯に釣り鐘　（　　）
(3)　猫に小判　（　　）
(4)　のれんに腕押し　（　　）

反対の意味
(5)　立つ鳥跡を濁さず　（　　）
(6)　棚からぼた餅　（　　）
(7)　案ずるより産むが易し　（　　）
(8)　せいては事を仕損じる　（　　）

ア　馬の耳に念仏
イ　石橋をたたいて渡る
ウ　善は急げ
エ　猿も木から落ちる
オ　まかぬ種は生えぬ
カ　ぬかに釘
キ　月とすっぽん
ク　あとは野となれ山となれ

見本

目次へ戻る

Ⅲ 文語のきまり

一 歴史的仮名遣い

仮名遣いと発音

① **「を・ゐ・ゑ」を「お・い・え」と読む。**
（例）をがむ→おがむ　まゐる→まいる
くれなゐ→くれない　こゑ→こえ

② **語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」と読む。**
（例）つはもの→つわもの　向かひて→向かいて　買ふ→買う
かたへ→かたえ　ほのほ→ほのお

③ **「au・iu・eu」は、「ô・yû・yô」と読む。**
（例）更衣（kauい）→こうい（kôi）
幽霊（iurei）→ゆうれい（yûrei）
苗字（meuzi）→みょうじ（myôzi）

④ **語の途中に「ふ」のある時は「う」にして、③の原則に従う。**
（例）尊く→たうとく（tautoku）→とうとく（tôtoku）
扇→あうぎ（augi）→おうぎ（ôgi）

⑤ **「ぢ」「づ」は、「じ」「ず」と読む。**
（例）ぢめん「地面」→じめん　しみづ「清水」→しみず

⑥ **「くわ」「ぐわ」は、「か」「が」と読む。**
（例）くわし「菓子」→かし　ぐわいこく「外国」→がいこく

⑦ **「む」は、「ん」と読むことがある。**
（例）なむ→なん　けむ→けん　らむ→らん

学習のねらい

◇ 歴史的仮名遣いで書かれた文章の読み方を学ぶ。
◇ 古語と現代語との違いをとらえる。
◇ 係り結びなどの表現のきまりを学ぶ。

学習を確かめよう

月日は百代の過客（①くわかく）にして、行（②ゆ）きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへ（③）て老いを迎（④）ふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれ（⑤）の年よりか、片雲の風にさそはれて（⑥）、漂白の思ひやまず（⑦）、……後略……

「おくのほそ道」から

次の言葉を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

① くわかく →（　　）
② 行きかふ →（　　）
③ とらへて →（　　）
④ 迎ふる →（　　）
⑤ いづれ →（　　）
⑥ さそはれて →（　　）
⑦ 思ひやまず →（　　）

見本

目次へ戻る

二　古語のいろいろ

春はあけぼの。夏は夜。秋は夕暮れ。冬はつとめて。

有名な清少納言作『枕草子（第一段）』に出てくる言葉で、**「あけぼの」**は**夜が明ける頃**を意味し、**「つとめて」**とは**早朝**を意味する。このように現代ではあまり使われない言葉、そして、現代語とは意味の違う言葉が古語にはある。古語の意味を的確に理解し、古人の感性に触れることが、古典の学習で大切なことである。

◇古典の中に出てくる一日の時間帯を表す言葉

夜明け	あかつき（夜があけるまで）
	あけぼの（夜があける頃）
	有明け（月が空にある夜明け）
早朝	つとめて
朝	あさ・あした
正午ころ	ひるつかた
夕方	ゆふべ・ゆふぐれ
	たそがれ・くれかた
夜	よる・よひ
深夜	よなか・よふけ
一晩中	よもすがら
一日中	ひねもす・日暮し

古典の中に出てくる言葉（写真）

◇古典の中に出てくる月の呼び名

有明（ありあけ）の月	夜があけても空に残っている月
夕月夜（ゆうづくよ）	夕方にはすでに出ている月
立待月（たちまちづき）	立って待つ間にすぐ出る月（十七日頃）
居待月（いまちづき）	座って待っていないと出ない月（十八日頃）

学習を確かめよう

次の時間を表す古語を（　　）に書きなさい。

(1) 一日中（　　）　(2) 早朝（　　）

(3) 一晩中（　　）　(4) 正午ころ（　　）

練習問題に取り組もう

基本問題

1 現代とは意味の異なる次の古語の意味を、古語辞典を使って調べなさい。

(1) うつくし →（　　）

(2) をかし →（　　）

(3) あやし →（　　）

2 現代では用いられない次の古語の意味を、古語辞典を使って調べなさい。

(1) さらなり →（　　）

(2) つきづきし →（　　）

(3) 玉の緒 →（　　）

3 次の古語の具体的な意味を、古語辞典を使って調べなさい。

(1) あそび →（　　）

(2) まらうど →（　　）

(3) ことのは →（　　）

見本

三　係り結び

「ぞ・なむ・こそ」は、上の語を強く指示する強意を表し、「や・か」は「だろうか」（疑問）「～か、いや～だ」（反語）の意味を表す。

「ぞ・なむ・や・か」は連体形で結ぶ

人はいさ　心も知らず　ふるさとは
花ぞ昔の　香ににほひける

（意味）　人の心のうちはさあどうだかわかりませんが、ふるさとの梅の花だけは昔のままの香りで咲いていますね。

もと光る竹なむ一筋ありける

（意味）　根元の光る竹が一本あった。

「こそ」は已然形で結ぶ

道の辺に　清水流るる　柳かげ
しばしとてこそ　立ちどまりつれ

（意味）　涼しげに清水が流れる道のほとりの柳の木陰。しばらくと思って立ちどまった。（あまりに涼しいので長居をしてしまったよ）

※「已然」とは、すでにそうなっている の意。確定の条件を表す。

学習を確かめよう

1　次の文で「係り結び」になっているところに――線を引きなさい。

例　風の音にぞおどろかれぬる。

(1)　その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

(2)　人の世は水のあわにや似たりける。

(3)　聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。

2　次の――線部の語を係り結びの法則に従って直しなさい。

(1)　名をば、さぬきのみやつことなむいひけり。
→（　　）

(2)　そこはかとなく書きつくれば あやしうこそものぐるほしけり。
→（　　）

(3)　生きとし生けるもの いづれか歌をよまざりけり。
→（　　）

(4)　あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたり。
→（　　）

見本

練習問題に取り組もう

1 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

〔文語文〕①よろづのことよりも情あるこそ、男はさらなり、女もめでたくおぼゆれ。なげのことばなれど、せちに心にふかく入らねど、②いとほしきことをば「いとほし」とも、あはれなるをば「げにいかに思ふらん」などいひけるを、伝へて聞きたるは、さし向ひていふよりも③うれし。いかでこの人に、思ひ知りけりとも見えにしがな、とつねにこそ④［　　］。

⑤かならず思ふべき人、とふべき人は、さるべきことなれば、とり分かれしもせず。さもあるまじき人の、さしいらへをもうしろやすくしたるは、うれしきわざなり。いとやすきことなれど、さらにえあらぬことぞかし。

〔現代語訳〕何事につけても情の深いのが、男はいうまでもないが、女も結構に思われる。ちょっとした言葉でも、心底から言うことでなくても、気の毒なことには「お気の毒です」と言い、あわれなことには「本当にどんなお気持ちでしょう」など言ったのを、人づてに聞いたときには、面と向かって言ってくれるよりもうれしい。何とかしてこの人に「（お言葉が）身にしみたことです」と知ってもらいたい、といつも⑥感ずることだ。

⑦［　　］や、訪れてくれたりするはずの人は、それが当然だから、特にうれしいこともない。そんなはずはなさそうな人が、ちょっとした返事でも、頼もしげにしてくれたのは、うれしいものだ。⑧こんなことは、いかにも造作ないことなのだが、めったにあり得ないことなのだ。

（「枕草子」二六九段）

(1) ——線①「よろづ」、②「いとほしき」、③「いふ」を現代仮名遣いに書き直しなさい。

①（　　）　②（　　）　③（　　）

(2) ④［　　］に、——線⑥「感ずることだ」という意味の古語を入れる場合、最も適当なものを次から選びなさい。

ア　おぼゆ　　イ　おぼゆれ　　ウ　おぼゆる　　エ　おぼえよ

（　　）

(3) ——線⑤「かならず思ふべき人」の現代語訳として、⑦［　　］にあてはまる適当な言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

ア　自分のことをきっと気にかけてくれる人
イ　自分が誰よりも心配しなくてはならない人
ウ　自分のことを全く気にかけない人
エ　自分がいつもかならず仲良くしている人

（　　）

(4) ——線⑧「こんなこと」とは、どんな内容をさすか。原文中から抜き出し、初めと終わりの三文字を書きなさい。

初め（　　）　終わり（　　）

(5) この文章で、筆者が最も述べたかったのはどんなことか。その一文を原文中から抜き出し、初めの四文字を書きなさい。

（　　）

見本

2 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、はじめの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろそかにせんと思はんや。懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。この戒め万事にわたるべし。

道を学ぶ人、夕べには朝あらんことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す。いはんや、一刹那のうちにおいて、［E］あることを知らんや。何ぞ、ただいまの一念において、ただちにすることのはなはだかたき。

（「徒然草」九二段）

※1　なほざりの心……ものごとに本気で取り組まずおろそかにする心

※2　懈怠の心……なまける心

※3　一刹那……非常に短い時間

現代語訳

(1) ――線ア～オの語句を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

ア　習ふ　（　　）　イ　向かふ　（　　）

ウ　いはく　（　　）　エ　なほざり（　　）

オ　わづかに（　　）

(2) ――線①③において、省略されている助詞を正しく入れて書きなさい。

①　弓射ること　（　　）

③　師これを知る（　　）

(3) ――線A～Dの「の」の使い方において、一つだけ違うものを選び、記号で答えなさい。　（　　）

(4) ――線②⑤の主語・主部を書きなさい。

②　言ふ　（　　）

⑤　期す　（　　）

(5) ――線④「この戒め」とは、どういうことか書きなさい。

（　　）

(6) ［E］にあてはまる語句を文章中より選び、四字で書きなさい。　（　　）

(7) ⑥「ぞ～かたき。」のような、文意を強調するきまりを何というか。　（　　）

見本

◎品詞分類表（口語）…文法上の性質によって単語を分類した表

- 単語
  - 自立語
    - 活用する
      - 述語になる（用言）
        - ウ段で終わる → **1 動詞**
          動作・変化・存在を表す
          〈例〉歌う・ある
        - 「い」で終わる → **2 形容詞**
          状態・性質を表す
          〈例〉楽しい・美しい
        - 「だ」「です」で終わる → **3 形容動詞**
          状態・性質を表す
          〈例〉変だ・きれいだ
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） → **4 名詞**
          生き物・物・事などを表す
          〈例〉犬・机・彼
      - 修飾語になる
        - 主に連用修飾語になる → **5 副詞**
          主に用言を修飾する
          〈例〉ゆっくり・もし
        - 連体修飾語になる → **6 連体詞**
          体言だけを修飾する
          〈例〉この・大きな
      - 接続語になる → **7 接続詞**
          主に文と文をつなぐ
          〈例〉だから・しかし
      - 独立語になる → **8 感動詞**
          感動・呼びかけ・応答を表す
          〈例〉あら・はい
  - 付属語
    - 活用する → **9 助動詞**
          〈例〉たい・た・です
    - 活用しない → **10 助詞**
          〈例〉が・は・を・に

令和６年度版　ことばのきまり　中学３年

編集　「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行　公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話〈0564〉51－4819

印刷　あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

見本

３年　　組　　番

氏名

令和
6
年度版

ことばのきまり

3

教師用

愛知教育文化振興会
三河教育研究会

見本

目次へ戻る

もくじ

Ⅰ 文法の復習
一 言葉の単位・単語の分類 …… 2
㈠ 文 …… 2
㈡ 文節 …… 2
㈢ 単語 …… 3
二 文の成分 …… 14
㈠ 文節どうしの関係 …… 14
㈡ 文の成分 …… 15
三 まぎらわしい品詞の識別 …… 21
Ⅱ 言葉の学習
一 類義語・対義語・多義語 …… 33
㈠ 類義語 …… 33
㈡ 対義語 …… 33
㈢ 多義語 …… 33
二 敬語 …… 34
㈠ 丁寧語 …… 34
㈡ 尊敬語 …… 34
㈢ 謙譲語 …… 34
三 和語・漢語・外来語 …… 36
㈠ 和語 …… 36
㈡ 漢語 …… 36
㈢ 外来語 …… 36
四 慣用句 …… 37
五 故事成語 …… 38
六 ことわざ …… 39
Ⅲ 文語のきまり
一 歴史的仮名遣い …… 40
二 古語のいろいろ …… 41
三 係り結び …… 42

「ことばのきまり」の特色と使い方

「ことばのきまり」は、授業や教科書に合わせて、自主的に学習を進めることができるように編集してあります。この本のしくみと使い方を説明しますので、よく読んで学習を進めていきましょう。

一 この本のしくみ

「ことばのきまり」は、およそ次のように構成されています。

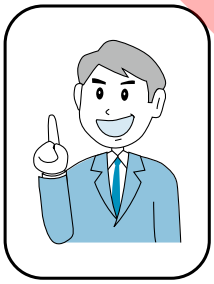
㈠ 例を示して説明するところ
・例文を示して説明します。
・必要に応じて、詳しく説明します。

㈡ 学習を確かめよう
・解説を受けて、基本的な問題を解きます。

㈢ 練習問題に取り組もう
① 基本問題をさらに解き、学習の定着を図ります。
② 基本問題よりやや難しい発展問題を解きます。
※この構成は、学年や単元によって異なりますが、基本的な学習を終えて練習問題に進むことになっています。

二 登場人物のアドバイス

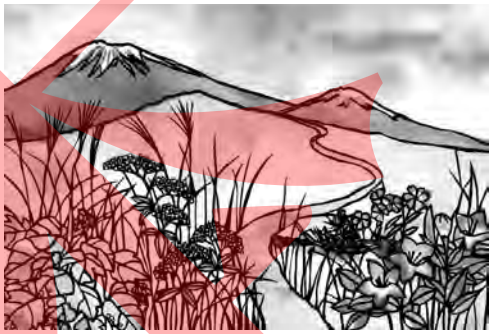
「ことばのきまり」には、次の二人の人物が登場します。それぞれのアドバイスにしたがって、自主的に学習を進めましょう。



表紙絵　碧南　稲垣尚人

見本

『ことばのきまり3』を学ぶにあたって
― 学んだ言葉の力を生かそう ―



『ことばのきまり3』では、『ことばのきまり1』と『ことばのきまり2』で学んだ文法の知識をもとに、言葉についての思考力、判断力、表現力等を、基礎や基本、応用の問題を通して学習します。

Ⅰの文法の復習では、それぞれの言葉の単位と単語について、総復習します。

Ⅱの言葉の学習では、「類義語・対義語・多義語」と「敬語」と「和語・漢語・外来語」などについて、誤用の多い例題も交えながら、重要点を確認します。

Ⅲの文語のきまりでは、古語と現代語の違いを考え、古人の鋭い感性に触れながら、歴史的仮名遣いや係り結びといった文語のきまりを学んでいきます。

我々は変化の激しい時代に生きています。そして、過去との大きな違いとして、途方もなく無数の、会ったことのない人に、自分の言葉を届けることのできるツールを手にしています。これからを生きるみなさんには、人を誹謗中傷するような言葉ではなく、つらいとき、苦しいときに、心の杖となるような言葉を紡ぎ、遠い未来の人々に残してほしいと思います。

若い人達の間で「マジでヤバイ」という表現を耳にするようになりました。しかし、目上の人に使うには抵抗がありませんか。それは、「マジ」はまじめの略語、「ヤバ」は危険なさまを表すときなどに使う隠語であり、無意識に正しくないと思っているからです。言葉は日々変化しています。ことばのきまりで学んだ力を生かし、確かで優れた言葉を学習や生活の中で使っていきましょう。

見本

目次へ戻る

Ⅰ　文法の復習

一　言葉の単位・単語の分類

(一)　文

文…いろいろな出来事や事柄を、伝えたり、尋ねたり、行動を誘いかけたりする言葉のまとまり。

文の区切りは、文字で書く場合は「。（句点）」で示すのが普通です。話すときは、そこで息を切って、少し休むことで表します。

(二)　文節

文節…発音や意味のうえで、不自然にならないように、文をできるだけ短く区切ったまとまり。

文は全て一つ以上の文節からできているので、文節は文を組み立てる単位であるといえます。

一つの文節は、一つの自立語と、それに続く付属語で構成されています。（自立語と付属語についてはＰ３参照）

（例）　母は（自付）　真っ白な（自）　ハンカチを（自付）　まぶたに（自付）　当てました（自付付）。

学習のねらい

◇　一、二年生で学習した内容を復習する。
◇　学んだ内容を自分の表現に役立てる。

1　次の文の文節の区切り方で、正しいものを選んで記号で答えなさい。

(1)　この土地に根を下ろそうとしている。
ア　この　土地に　根を　下ろそうと　している。
イ　この土地に　根を　下ろそうと　して　いる。
ウ　この　土地に　根を　下ろそうと　して　いる。
（　ウ　）

(2)　時間は矢のように過ぎていった。
ア　時間は　矢の　ように　過ぎて　いった。
イ　時間は　矢のように　過ぎて　いった。
ウ　時間は　矢のように　過ぎて　いっ　た。
（　イ　）

(3)　あれはいったいなんだったのだろう。
ア　あれは　いったい　なんだったのだろう。
イ　あれは　いったい　なんだった　のだろう。
ウ　あれは　いったい　なんだったの　だろう。
（　ア　）

(4)　このことはあまり話したくないものだ。
ア　この　ことは　あまり　話したく　ない　ものだ。
イ　この　ことは　あまり　話したくない　ものだ。
ウ　このことは　あまり　話したく　ない　ものだ。
（　ア　）

見本

目次へ戻る

(三) 単語

単語…文節をさらに細かく分け、それ以上分けると言葉としての意味がなくなるか、言葉としての役割を果たさなくなるところまで区切った言葉の最小単位。

P2の例文を単語に分けると、次のようになります。

母　は　真っ白な　ハンカチ　を　まぶた　に　当て　まし　た。

①　自立語……それだけで文節を作ることのできる単語。

例文では、**母　真っ白な　ハンカチ　まぶた　当て**

自立語は一文節に必ず一つあり、いつも文節の頭にきます。

②　付属語……それだけでは文節を作ることのできない単語。

例文では、**は　を　に　まし　た**

付属語は一文節にない場合も、二つ以上ある場合もあります。

品詞分類表

- **単語**
  - **自立語**
    - 活用する――述語になる――（用言）
      - ウ段で終わる……**動詞**
      - 「い」で終わる……**形容詞**
      - 「だ」「です」で終わる……**形容動詞**
    - 活用しない
      - 主語になる（体言）……**名詞**
      - 主語にならない
        - 修飾語になる
          - 主に連用修飾語になる……**副詞**
          - 連体修飾語になる……**連体詞**
        - 接続語になる……**接続詞**
        - 独立語になる……**感動詞**
  - **付属語**
    - 活用する……**助動詞**
    - 活用しない……**助詞**

（品詞）

1　次の文はいくつの単語からできているか。漢数字で書きなさい。

(1)　悲しむべき厚い壁が二人の間を隔ててしまったのを感じた。

（十七）

(2)　彼は首を振るばかりだった。

（八）

2　次の文を単語に分け、自立語と付属語に分類しなさい。

(1)　もう真冬の候であった。

自立語（もう　真冬　候　あっ）

付属語（の　で　た）

(2)　そのとき何をしゃべったかは覚えていない。

自立語（その　とき　何　しゃべっ　覚え　い）

付属語（を　た　か　は　て　ない）

(3)　私は身震いしたらしかった。

自立語（私　身震いし）

付属語（は　た　らしかっ　た）

(4)　これもたまらなく悲しい。

自立語（これ　たまらなく　悲しい）

付属語（も）

見本

①自立語
動詞

(1) **働き……動作・変化・存在を表し、それだけで述語や修飾語になることができる。**

(2) **かたち……自立語で活用する。言い切りの形（終止形）が、ウ段の音で終わる。**

動詞の活用の種類
詳しい説明

(3) **活用の種類**

○五段活用　ア・イ・ウ・エ・オ段の五段に沿って活用する。

○上一段活用　ウ段の一つ上のイ段の音ですべてが活用する。

○下一段活用　ウ段の一つ下のエ段の音ですべてが活用する。

○カ行変格活用（カ変）＝「来る」の一語だけの特殊な活用。

○サ行変格活用（サ変）＝「する」「○○する」だけの特殊な活用。

※見分け方　・カ変「来る」、サ変「する」「○○する」
・五段、上一段、下一段は「ない」をつける。
（例）書く＋ない＝書か（ア段）ない→**五段**
着る＋ない＝着（イ段）ない→**上一段**
見せる＋ない＝見せ（エ段）ない→**下一段**

(4) **活用形……単語が活用したときにできる一つ一つの形。あとに続く形や言い切りの形により六つに分類される。**

【あとに続く言葉の例】
未然形＝ない、う、よう、せる　　連用形＝ます、た、て
させる、れる、られる
終止形＝―。、と、から　　連体形＝こと、とき、の（名詞）
仮定形＝ば　　命令形＝―。

(5) **補助動詞（形式動詞）**……動詞本来の働きはなく、上の文節を助ける。ひらがな書きが原則。
（例）走っている　しまっておく　降ってくる

1 **次の――線部①～④の動詞について、活用の種類と活用形をそれぞれ書きなさい。**

澄み切った空気と広々とした①野原、そのところどころに点在する大小の森や林を爽（さわ）やかな風が縫（ぬ）う②。山村のこの地に住まいを構えれば③、来年の今ごろ、わたしは十分すぎるほどに自然を楽しんでいる④ことだろう。

①（サ行変格）活用（連用）形　②（五段）活用（終止）形
③（下一段）活用（仮定）形　④（上一段）活用（連体）形

2 **次の――線部ア～オの動詞で、活用の種類が他と異なるものはどれか。記号で答えなさい。**

マグロは海で泳ぎながら寝ます。泳いでいないと息ができない体の仕組みになっていて、止まると死んでしまうのです。

ア五段　イ上一段　ウ五段　エ五段　オ五段

（イ）

3 **次の――線部ア～オの動詞で、活用形が他と異なるものはどれか。記号で答えなさい。**

自分が何を持っているのか、確認しましょう。引っ越してきたときのまま開けていないダンボール。中身のわからない箱。どんどん開き、いらないものは処分しましょう。

ア連用　イ連用　ウ連用　エ未然　オ連用

（エ）

見本

形容詞

(1) **働き……事物の状態や性質を表し、述語や修飾語になる。**

(2) **かたち……自立語で活用する。**

言い切りの形（終止形）が「――い」で終わる。

・今年の　夏は　暑い。

・母は　とても　優しい。

(3) **活用の種類……一種類だけ。**

活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
基本形（主な語幹／続き方）	―う	―た ―ない ―なる	―。	―とき ―ので	―ば	―。
明るい（明る）	かろ	かっ く う	い	い	けれ	○

(4) **活用形……動詞と同様に、あとに続く形や言い切りの形により五つに分類される。（命令形はない）**

(5) **補助形容詞……**形容詞本来の働きはなく、上の文節を助け意味を添える役割だけをもった形容詞。

（形式形容詞）

ひらがな書きが原則。

（例）時間が　ほしい。（形容詞）

自転車を　買って　ほしい。（補助形容詞）

(6) **音便（おんびん）……連用形**「――く」の下に「ございます・存じます」のような丁寧な表現がつながっていく場合に「――う」の形に発音上の変化が起きる。これを**ウ音便**という。

（例）早く　＋　ございます　→　はようございます

新しく　＋　ございます　→　あたらしゅうございます

1　次の――線部①～⑧の形容詞の活用形を書きなさい。

(1) 暑い①中を出かけるのかと思うと、実に気が重い②。

(2) 太陽の光がなければ③、いくら暖かくても④植物は育たない。

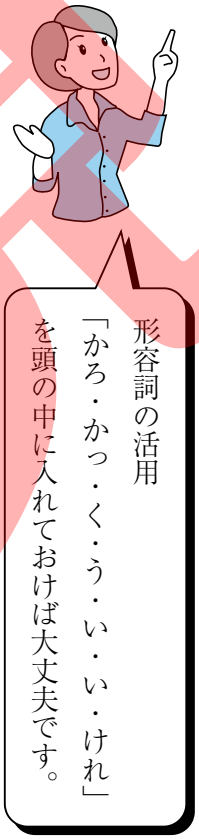
(3) 若い⑤人たちの話を聞くのは、きっと楽しかろう⑥。

(4) 行儀が悪い⑦と早速（さっそく）しかられた。

(5) 子どもの小さい⑧手を引いて、公園を歩く。

①（連体形）　②（終止形）　③（仮定形）　④（連用形）

⑤（連体形）　⑥（未然形）　⑦（終止形）　⑧（連体形）



2　次の文の――線を引いた語のうち、補助形容詞（形式形容詞）はどれか。記号に○を付けなさい。

(1)
ア　思ったより恐ろしくない。
イ　机の上には鉛筆がない。
ウ　君がそれほど反対するなら、僕は行かない。

(2)
ア　悪いところを注意してくれる友達がほしい。
イ　悪いところははっきり注意してほしい。

見本

形容動詞

(1) 働き……事物の状態や性質を表し、述語や修飾語になる。

(2) かたち……自立語で活用する。

言い切りの形（終止形）が「――だ」で終わる。

（丁寧な言い方では「です」で終わる）

名詞に続く形が「な」になる。

・彼の　話し方は　とても　なめらかだ。

・今日も　みんな　元気だ。

(3) 活用の種類……一種類だけ。

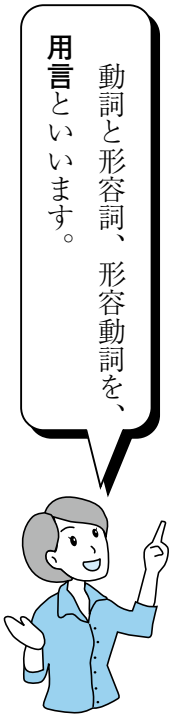
活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
主な続き方 ／ 語幹	―う	―た ―ない ―なる	―。	―とき ―ので	―ば	―。
静かだ　静か	だろ	だっ で に	だ	な	なら	○
静かです　静か	でしょ	でし	です	（です）	○	○

(4) 活用形……動詞と同様に、あとに続く形や言い切りの形により五つに分類される。（命令形はない）

※「名詞＋だ（断定の助動詞）」と区別をしましょう。

彼は僕に親切だ。→ 形容動詞

彼は僕の親友だ。→ 名詞＋だ（断定の助動詞）



見本

1 次の――線部①～④の形容動詞の終止形を書きなさい。

(1) 二人を乗せた船は静かに港を出て行った。①

(2) 彼女は真面目な人柄で多くの人から好かれている。②

(3) 明日の海は、穏やかでしょう。③

(4) 彼は常に積極的で、好奇心に満ちていた。④

①（　静かだ　）②（　真面目だ　）

③（　穏やかです　）④（　積極的だ　）

2 次の――線部①～④の形容動詞の活用形を書きなさい。

(1) 日本も日本人もみじめな時代があった。①

(2) 彼らが真剣ならば、決勝進出は簡単だろう。②③

(3) 叔父はとても、元気でした。④

①（連体形）②（仮定形）③（未然形）④（連用形）

3 次の――線部が形容動詞であるものには○を、そうでないものには品詞名を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) あれは僕の建てたアパートだ。（名詞・助動詞）

(2) 彼女はああ見えても結構のんきだ。（○）

(3) 夜明けの海は波がとても穏やかだ。（○）

(4) 彼女は、ユリの花のようだ。（助動詞）

(5) 昨日、とても面白い本を読んだ。（動詞・助動詞）

名詞

(1) **働き……主として「生き物」「物」や「事柄」の名前を表す。**
「が」「は」「も」などをともない主語になる。

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

(3) **種類**

① **普通名詞**＝物事一般の名を表す。（黒板、姉、風　など）

② **代名詞**
- **人称代名詞**＝人を指し示す。（わたし、彼女　など）
- **指示代名詞**＝物事や場所などを指し示す。（これ、そこ、あちら　など）

③ **固有名詞**＝人名・地名・国名・書名など、特定の事物の名を表す。（田中さん、岡崎市、日本　など）

④ **数詞**＝数量や順序を表す。（八月、一週間、二度　など）

⑤ **形式名詞**＝本来の意味が薄れて、常に連体修飾語に付いて使われる。ひらがな書きが原則。（着いたところ、来るはず、行ったほう　など）

名詞には、次のような成り立ちによってできたものもある。

① **転成名詞**　他の品詞から名詞に変わったもの
- 帰る（動詞）　学校からの帰りだ。
- 近い（形容詞）　この近くにいる。
- 寒い（形容詞）　寒さが身にしみる。
- 真面目だ（形容動詞）　彼の真面目さは評判である。

② **複合名詞**　二つ以上の単語が結びついてできたもの
- 秋（名詞）＋風（名詞）＝**秋風**
- 山（名詞）＋登る（動詞）＝**山登り**

1　**次の――線部の名詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 十二月に入ると寒くなる。　（ウ）
(2) 豊田市に転居してきた。　（イ）
(3) 机を持ってきて。　（ア）
(4) どれがいいですか。　（オ）
(5) 決めることがあったはずだ。　（エ）

ア　普通名詞	イ　固有名詞	ウ　数詞
エ　形式名詞	オ　代名詞	

2　**次の文の転成名詞に――線を引きなさい。**

(1) 川の流れがゆるやかになった。
(2) 先生の手の動きをよく見て歌った。
(3) この夏の暑さは体にこたえた。
(4) 彼は遠くへ行くつもりだった。
(5) 自然の豊かさがふるさとを思い出させる。
(6) 彼の穏やかさに救われた。

3　**次の文の複合名詞に――線を引きなさい。**

(1) 机の上に走り書きのメモがあった。
(2) 近道を急いで走ったので、試合に間に合った。

見本

副詞

(1) **働き……主として用言を修飾し、物事を詳しくする。**
・牛がのんびりと歩いている。　・少し待ってください。
※用言以外のものを修飾することもある。
・今日は　とても　たくさん　釣れた。（副詞を修飾）
・すぐ　先の　アパートへ　引っ越した。（名詞を修飾）

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

(3) **種類……働きのうえから三種類に分類される。**
① **状態の副詞**（「どのように」という状態を表す）
・洪水はたちまち家を流した。
・花びらがひらひらと散っている。
※擬声語・擬音語・擬態語は、全て状態の副詞に含まれる。
② **程度の副詞**（「どのくらい」という程度を表す）
・もっと速く走ろう。　・ずいぶん多く集まったね。
③ **呼応の副詞**（下に決まった言い方がくる）
・まるで海のような湖だ。　・私にはその意味が全然わからない。
※呼応の副詞は、**陳述**（ちんじゅつ）**の副詞**とも呼ばれる。

連体詞

(1) **働き……すぐ下の体言（名詞）を修飾し、物事を詳しくする。**
・ある朝、大きな船が港を出て行った。
・いろんな花が咲いている。

(2) **かたち……自立語で活用しない。**

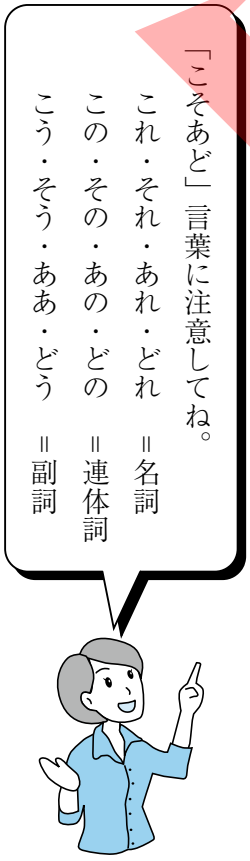
1 **次の文から副詞を抜き出し、下の（　）の中に書きなさい。**
(1) 雨があがって、すっかり晴れた。（すっかり）
(2) どうしたらいいのだろうか。（どう）
(3) 打球がぐんぐん伸びた。（ぐんぐん）
(4) きっと彼のしたことだ。（きっと）

2 **次の――線部の副詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。**
(1) かりに失敗しても、私は後悔はしない。（ウ）
(2) 自分の思っていることをはっきり言うことが必要だ。（ア）
(3) キャンプ場では、たくさん星が見られる。（イ）

ア　状態の副詞　　イ　程度の副詞　　ウ　呼応の副詞

3 **次の文から連体詞を抜き出し、下の（　）の中に書きなさい。**
(1) 今日はとんだ目にあってしまった。（とんだ）
(2) あらゆる場合を想定して訓練すべきだ。（あらゆる）
(3) これくらいなら、たいしたけがではない。（たいした）

4 **次の――線部の言葉の品詞名を漢字で書きなさい。**
(1) あのお店は何を売っているのですか。（連体詞）
(2) あれは日本一高い富士山だ。（名詞）
(3) ああしたことはよくある。（副詞）



見本

接続詞

(1) 働き……単語と単語、文節と文節、文と文などをつなぐ。

(2) かたち……自立語で活用しない。

(3) 種類

種類	働き	接続詞
順接	前に述べたことが、後に述べることの原因・理由となる。	それで・そこで・すると・したがって・それゆえ・ゆえに・だから
逆接	前に述べたこととは逆になることが後にくる。	しかし・だが・けれども・だけど・でも・ところが・が・それでも
並列・累加（るいか）	前に述べたことと並べたり、それに付け加えたりする。	そして・また・それから・および・なお・さらに・しかも
対比・選択	前に述べたことと比べたり、どちらか選んだりする。	または・あるいは・もしくは・それとも・いっぽう
説明・補足	前に述べたことをまとめたり、補ったりする。	すなわち・ただし・例えば
転換	前に述べたことと話題を変える。	さて・ところで・では・ときに

1 次の文の（　）に適する語をあとの□から選び、書きなさい。

(1) マラソンはきつい。（　しかし　）、走ったあとの気分は実にいい。

(2) 手紙（　または　）電話で連絡してください。

(3) 試合に負けた。（　なぜなら　）、練習不足だったからだ。

(4) 体言とは、（　つまり　）、名詞のことである。

それで	つまり	または	さて	しかし
なぜなら	すると	むしろ		

2 次の文の接続詞に――線を引き、その種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 今日は天気がいい。だから、遠足に行く。（　ア　）

(2) 小学生および中学生を対象にする。（　ウ　）

(3) こうなったのも、つまり、君が悪いからだ。（　オ　）

(4) 今日は一日中雨だ。しかし、試合は続行する。（　イ　）

(5) やっと着いた。さて、弁当を食べよう。（　カ　）

(6) ボールペン、または、鉛筆を使いなさい。（　エ　）

ア　順接	イ　逆接	ウ　並列・累加（るいか）
エ　対比・選択	オ　説明・補足	カ　転換

3 次の――線部が接続詞であるものには○を、そうでないものには品詞名を書きなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) A 納豆はおいしい。また、栄養もある。（　○　）
B 今日もまた山を越えていく。（　副詞　）

(2) A すぐに行った。けれど、間に合わなかった。（　○　）
B すぐに行ったけれど、間に合わなかった。（　助詞　）

(3) A そんなことをすると、しかられるよ。（　動詞・助詞　）
B 百点か。すると、君は一番だね。（　○　）

見本

感動詞

(1) 働き……感動・呼びかけ・応答などを表す。
(2) かたち……自立語で活用せず、独立語になる。
(3) 種類
① 応答……はい、うん、ええ、いえ、いいえ、はあ、いや　など
② 呼びかけ……ねえ、さあ、やあ、こら、おい、おうい　など
③ 感動……ああ、あれ、おお、おや、はて、ほう　など
④ 挨拶……おはよう、こんにちは、ありがとう　など

1 次の文の感動詞に――線を引きなさい。

(1) これ、そんなことしたら危ないよ。
(2) やあ、こんばんは。
(3) ええっ、いつそんなことをしたんだい。
(4) そらっ、そっちへ渡すぞ。
(5) ああ、なんと美しい友情だろうか。

2 次の――線部のうち、感動詞はどちらか。記号を○で囲みなさい。

(1) ア　ちょっと元気がないね。　※副詞
　　イ　ちょっと、これでいいかい。

(2) ア　それ、なあに。　※名詞
　　イ　それ、行くぞ。

3 次の――線部の感動詞は、あとの□のどれを表しているか。記号で答えなさい。

(1) ああ、いいお湯だったなあ。　（ウ）
(2) いいえ、私は何も知りません。　（ア）
(3) おいおい、こっちを向いてくれ。　（イ）
(4) こんばんは、わたしが山田です。　（エ）

ア　応答　イ　呼びかけ　ウ　感動　エ　挨拶

4 次の文の（　）に入る適当な語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) （ウ）、そのようにしたいと思います。
(2) （ア）、そうだった。忘れるところだった。
(3) （イ）、だから言ったじゃないか。
(4) （エ）、ごきげんいかがですか。

ア　おお　イ　ほら　ウ　はい　エ　こんにちは

見本

②付属語 助動詞

(1) 働き……意味を付け加えたり、話し手、書き手の気持ちや判断を表したりする。

(2) かたち……付属語で活用する。

(3) 意味による分類

① れる・られる――受け身、可能、尊敬、自発
② せる・させる――使役
③ たい・たがる――希望
④ ない・ぬ――否定（打ち消し）
⑤ う・よう――推量、意志、勧誘
⑥ た（だ）――過去、完了、存続、想起
⑦ ます――丁寧
⑧ らしい――推定
⑨ ようだ・ようです――推定、比喩
⑩ そうだ・そうです――推定・様態、伝聞
⑪ まい――否定の意志、否定の推量
⑫ だ・です――断定

1 次の――線部の「れる」「られる」は、A受け身、B可能、C自発、D尊敬のどれにあたるか。記号で答えなさい。

(1) まだ中学生だった僕には、そのように思われた。（ C ）
(2) 人間も自然の一部として、その中で育てられていく。（ A ）
(3) 君は、明日の朝五時に起きられるか。（ B ）
(4) 先生が階段を急いで上って来られる。（ D ）
(5) 長年研究された結果が今日発表される。（ A ）
(6) 与えられた情報と疑問から出発する。（ A ）

2 次の――線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 明日は、雨が降るらしい。（ イ ）
(2) 母の病気が案じられる。（ オ ）
(3) 私は、昨日映画を見に行った。（ ア ）
(4) まだ試合は終わっていない。（ ウ ）
(5) 外はとても暑いそうだ。（ エ ）

ア 過去　イ 推定　ウ 否定　エ 伝聞　オ 自発

3 次の――線部の「ない」が助動詞であるものに○をつけなさい。そうでないものには×をつけなさい。

(1) 彼には、好き嫌いといったものはない。（ × ）※形容詞
(2) 私には彼の気持ちがわからない。（ ○ ）
(3) この家具は、それほど高価ではない。（ × ）※補助形容詞
(4) 今年の夏休みはいつもより宿題が少ない。（ × ）※形容詞の一部

4 次の――線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 私も、リサイクルに参加しよう。（ イ ）
(2) みんなで公園へ行こう。（ ウ ）
(3) 父もきっとわかってくれよう。（ ア ）

ア 推量　イ 意志　ウ 勧誘

見本

5 次の例文の――線部と同じ品詞・働きのものを、あとのア～エから選び、記号に○を付けなさい。

(1) 例 明日は雨だそうだ。伝聞
ア 彼はアメリカへ行くそうだ。伝聞　イ 明日は雨になりそうだ。推定・様態
ウ そうだ、すっかり忘れた。感動詞　エ もうすぐ終わりそうだ。推定・様態

(2) 例 もう来るようだ。推定
ア 彼は仏のようだ。比喩　イ 雨が降るようだ。推定
ウ 彼のように正直な人はいない。比喩　エ 星が降るように花が散る。比喩

(3) 例 今度はよくできたらしい。推定
ア そこにいるのは中学生らしい。推定　イ 小鳥はかわいらしい。形容詞の一部
ウ 中学生らしい生活をする。形容詞の一部　エ 彼らしい作品だ。形容詞の一部

(4) 例 人があまり通らない。助動詞
ア この花は美しくない。補助形容詞　イ この部屋には何もない。形容詞
ウ ここからは何も見えない。助動詞　エ ないものはやれない。形容詞

(5) 例 壊れた筆箱がある。存続
ア 今書いたばかりです。完了　イ これは、君の本でしたね。想起
ウ 昨日、雨が降った。過去　エ 水のにごった流れを見る。存続

(6) 例 これは僕の本だ。断定
ア 夜は静かだ。形容動詞の語尾　イ 並んだ本を見る。存続
ウ 僕も転んだ。過去　エ この前行ったところだ。断定

6 次の――線部の助動詞を基本形（終止形）に直しなさい。また、その意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

例 このことをよく考えたい。（ たい ・ ア ）
(1) じゃあ、みんなでためしましょうね。（ ます ・ キ ）
(2) 子どもじゃあるまいし、自分でやりなさい。（ まい ・ カ ）
(3) 彼の呼びかけによって仲間を図書館に集まらせた。（ せる ・ エ ）
(4) 健一が声をかけようとしたとき、たまたま美樹は振り向いた。（ よう ・ ケ ）
(5) それはまるで、大地震の前兆のようだった。（ ようだ ・ オ ）
(6) 少年はほとんど泣きそうでした。（ です ・ イ ）
(7) 兄ちゃんが来られないから、おれが持ってきたんだよ。（ られる ・ ク ）
(8) 象はいかにもうるさいらしく、小さなその目を細めていた。（ らしい ・ ウ ）

ア 希望	イ 断定	ウ 推定	
エ 使役	オ 比喩	カ 否定推量	
キ 丁寧	ク 可能	ケ 意志	

見本

助詞

(1) 働き……さまざまな意味を付け加えたり、語句と語句の関係を示したりする。

(2) かたち……付属語で活用しない。

(3) 種類

① 格助詞……主として体言に付く。
（例）が、の、を、に、へ、と、より、から、で、や

② 副助詞……いろいろな語に付く。
（例）は、も、こそ、さえ、でも、だって、まで、しか、だけ　など

③ 接続助詞…主として用言や助動詞に付く。
（例）ば、と、ので、から、が、けれど、のに、ても、て　など

④ 終助詞……文や文節の終わりに付く。
（例）か、の、かしら、な、ね、さ、よ、や、ぞ、わ　など

1 次の――線部の助詞の種類をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 水さえあればもう安心です。（ウ）

(2) 彼はいつ帰るのだろうか。（エ）

(3) 君の言うことは、明らかに間違っている。（ア）

(4) 苦しいけれど、がんばるだけだ。（イ）

(5) 試合での彼の活躍は驚くほどだ。（ウ）

ア 格助詞　イ 接続助詞　ウ 副助詞　エ 終助詞

2 次の例文の――線部と同じ働きのものをあとの文から選び、記号で答えなさい。

(1) 例 明け方、犬のほえる声で目がさめた。主語を示す（ウ）

ア 私は読むのがとても苦手です。体言の代用
イ 父は毎朝、町の市場へ出かけます。連体修飾語を作る
ウ 西風の吹く日は、たいてい天気がよい。主語を示す

(2) 例 暑中見舞いを筆で書いた。手段（ア）

ア 私は、それを新聞で初めて知った。手段
イ きのうはかぜで休みました。原因・理由
ウ 五時ですべては終了する。時

(3) 例 彼は医師となって活躍した。結果（イ）

ア 読むとすぐわかる。順接の接続助詞
イ 十年後に音楽家となる。結果
ウ 出かけようとすると大雨が降ってきた。順接の接続助詞

(4) 例 事故は信号無視から起こった。原因（ア）

ア 睡眠不足から、体調を崩した。原因
イ 宿題をやってから遊びに行く。起点（時間）
ウ 牛乳からチーズを作る。原料・材料

見本

目次へ戻る

二　文の成分

(一)　文節どうしの関係

(主・述の関係)　私が　行きます。

(修飾・被修飾の関係)　美しい　花が　咲いて　いる。

彼は　まだ　走る。

※修飾語……詳しく説明する語。係る文節

※被修飾語…詳しく説明される語。受ける文節

〈連体修飾語と連用修飾語の見分け方〉

連体修飾語……被修飾語が体言(名詞)の場合

連用修飾語……被修飾語が用言(動詞、形容詞、形容動詞)の場合

(接続の関係)　寒かったので　帰った。

(独立の関係)　おや、つくしだ。

文節に分けるためのポイント

○「ね」「さ」をはさんでみましょう。

○「遊んで　いる」などの補助の関係に気をつけましょう。

1　次の文に一線を引いて、文節に区切りなさい。

(1)　おばあちゃんは一人庭先で夕涼みをしました。

(2)　雀の子が、鼠(ねずみ)の鳴き真似をすると、おどるようにやってくる。

(3)　春の初めから、かぐや姫は、月を見ては嘆き悲しんでいる。

2　次の①～⑨の文節どうしの関係をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　①(オ)「おうい、虹が　②(ア)見えるよ。」僕は　③(ウ)大声で　叫んだ。

(2)　犬が　④(イ)彼の　周りを　⑤(ウ)ぐるぐる　回って　います。

(3)　⑥(エ)雨だったので　やめた。

(4)　⑦(イ)静かな　高原牧場の　⑧(イ)晩秋の　⑨(ウ)風景を　描いた。

ア　主・述の関係　　イ　連体修飾・被修飾の関係

ウ　連用修飾・被修飾の関係　　エ　接続の関係

オ　独立の関係

見本

目次へ戻る

(二) 文の成分

①主語　僕は（主語）勉強する。
※「が」「は」「も」を伴う場合が多い。

②述語　赤い　花が　咲いた（述語）。
※文末にくる場合が多い。

③修飾語　彼は　学校を（修飾語）　休んだ。
※ある語を詳しく説明する。

④接続語　天気は　よい。しかし（接続語）、風は　冷たい。
※「、」で切れる。

⑤独立語　はい（独立語）、承知しました。
※「、」で切れる。

二つ以上の文節がまとまって、主語・述語・修飾語と同じ働きをするものを連文節という。連文節となった文の成分を、主部・述部・修飾部・接続部・独立部とよぶ。

次のような関係は、常に連文節となる。

○並立の関係　彼女は　明るく　活発だ。
※二つ以上の文節が対等に並んでいる関係を並立の関係といい、一まとまりで主語・述語・修飾語と同じ働きをする。

○補助の関係　桜が　咲いて　いる。
※下の文節が上の文節の意味を補う文節どうしの関係を補助の関係といい、補助的に使われる下の文節を補助の文節という。

1 次の――線部は、どのような文の成分になっているか。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 魚を　網で　すくった。（イ）
(2) おお、きれいな　海だ。（オ）
(3) 宿題が　いまだに　できて　いない。（ウ）
(4) 山の　頂に　雪が　降る。（ア）
(5) 素直だから、みんなに　好かれる。（イ）
(6) あちこちに　芽が　出て　いる。（ウ）
(7) セミが　鳴く。そして　夏が　やって　くる。（エ）
(8) 父は　子どもたちの　ために　働く。（ア）
(9) はい、わかりました。（オ）
(10) うれしい、この結果は。（イ）

ア 主語　イ 述語　ウ 修飾語　エ 接続語　オ 独立語

見本

2 次の――線部の文の成分は何か。あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 少女は とても 元気に 笑った。（ウ）
(2) 祖母の 作った 料理は おいしい。（ア）
(3) 私は 犬を 小屋に 入れて おいた。（イ）
(4) 走りたい 人、手を 挙げて ください。（オ）
(5) 暖かく なって きたので、ミツバチが 飛んで いる。（エ）
(6) クーラーの 使い過ぎは よく ない。（ア）

ア 主部　イ 述部　ウ 修飾部　エ 接続部　オ 独立部

3 次の文の中で並立の関係にある文節を探し、例にならって――線を引きなさい。

例 君は 勉強も 運動も できる。

(1) 赤い 大きな 夕日が 見えた。
(2) 彼は 静かで 穏やかだ。
(3) 試合に 勝つには 努力と 技術が 必要だ。
(4) 泣いたり 笑ったり 忙しい。
(5) 君と 僕が オーディションを 受ける。

4 次の文で補助の関係になっている文節に、例にならって――線を引きなさい。

例 テニスを やって みる。

(1) 先輩が つないで くれた たすきを 受け取る。
(2) 食事が もう すぐ できる はずだ。
(3) 僕は ちょうど 帰る ところだった。
(4) 大会が 終わって しまうと 寂しい。
(5) イルカが たくさん 泳いで いる。

5 次の――線部は、A並立の関係、B補助の関係のどれにあたるか。どちらでもなければCを書きなさい。

(1) 私は、水泳で 新記録を 出した。（C）
(2) 君の 持って いる 本は 学校の ものですか。（B）
(3) 夏に なると 心も 体も 軽やかに なる。（A）
(4) 僕の 得意な 教科は 数学と 国語だ。（A）

見本

①主語・主部

主語・主部とは、文の中で「何が（は、も）」にあたる部分のことで、動作や状態・性質などの主体を表す。

1 次の文の――線部は述語・述部です。この述語・述部に対する主語・主部に――線を引きなさい。

(1) 汽笛が　遠くまで　聞こえて　いる。
(2) アフリカには　広大な　砂漠が　広がって　いる。
(3) 学校から　帰って　くると　僕は　すぐに　宿題を　する。
(4) 朝しか　咲かない　朝顔は　かれんで　きれいだ。
(5) 優しく　包容力の　ある　祖母は　誰からも　好かれる。

②述語・述部

述語・述部とは、文の中で「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある」「いる」「ない」にあたる部分で、主語や主部の動作・状態・性質などを表す。

2 次の文の――線部は主語・主部です。この主語・主部に対する述語・述部に――線を引きなさい。

※上の文節が連体修飾語になっている場合は、連文節として考える。

(1) 私と　妹は　母の　帰りを　待った。
(2) スポーツは　私の　生きがいだ。
(3) 彼の　性格は　まじめで　おもしろい。
(4) 電車が　山あいを　走って　いる。
(5) 宿題が　たくさん　ある。

主・述の関係のあり方によって、文の種類は次のように分類される。

単文……一つの文の中に、主・述の関係が一つしかないもの。
複文……文の中のある成分に、主・述の関係が含まれ、主・述の関係が二つ以上あるもの。
重文……一つの文の中に、主・述の関係が二つ以上あり、それが並立の関係になっているもの。

【単文の例】
ひまわりが　きれいに　咲いた。

【複文の例】
ひまわりが　咲いた　花壇は　美しい。
（ひまわりが　咲いた：主部）

【重文の例】
ひまわりが　咲いて、セミが　鳴いた。

見本

1 次の文の主語・主部には═══線を、述語・述部には――線を引きなさい。

(1) いったい、こんなことをした人はだれだ。
(2) とにかく全力でやってみます。
(3) 外国から来た大きな船が停泊していた。
(4) 通り雨のおかげで暑さが和らいだ。
(5) 激しい台風が日本列島を襲った。

2 例にならって、次の文の種類を書きなさい。

例 私が描いた絵は、点描です。（ 複文 ）
(1) 私の母は、料理を作ります。（ 単文 ）
(2) 母が作った夕食は、カレーでした。（ 複文 ）
(3) 母がケーキを食べ、私はパフェを食べた。（ 重文 ）

3 次の文はどんな組み立てになっているか。あとの□から選び、記号で答えなさい。（═══線が主語・――線が述語）

(1) 水筒に水がある。（ エ ）
(2) 海がとても穏やかだ。（ ウ ）
(3) これは大きな池だ。（ イ ）
(4) 僕は大きな声で叫んだ。（ ア ）

ア 何が（は）―どうする　イ 何が（は）―何だ
ウ 何が（は）―どんなだ　エ 何が（は）―ある、いる

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

夕立が止み、グラブを持った少年たちは一斉にグラウンドに駆け出した。試合再開である。「締まっていくぞ。」キャプテンの声がグラウンドに響き渡る。少年たちは互いに声をかけ合った。そして、守備についた。雨に濡れたことなどなかったかのように、夢中になって白球を追う。

(1) ――線①「駆け出した」の主語・主部を抜き出しなさい。（ グラブを持った少年たちは ）
(2) ――線②「少年たちは」に対する述語・述部を抜き出しなさい。（ かけ合った ）

見本

③修飾語・修飾部

修飾語・修飾部とは、主語（部）・述語（部）・修飾語（部）の表していることがらを詳しく説明する部分のことである。

1 **次の文の修飾語・修飾部に〜〜線を引きなさい。**

(1) コンサートは　すでに　終わって　いた。
(2) 彼は　母校の　先生に　なった。
(3) 僕は　意見の　言えない　自分自身を　責めた。

【修飾部】
市長さんは、　僕の　おじいさんを　表彰した。
語順を入れかえられなければ、まとめて修飾部にする。

【修飾語】
市長さんは、　市長室で　おじいさんを　表彰した。
語順を入れかえても意味が変わらなければ別々の修飾語と考える。

2 **次の——線部に係る修飾語・修飾部に〜〜線を引きなさい。**

(1) インターネットは　僕に　いろいろな　世界を　教えて　くれる。
(2) 私は　修学旅行で　仲間との　思い出を　作った。
(3) その　猫は　毎日　縁側で　昼寝を　して　いる。
(4) 子供たちが　公園で　ブランコに　乗って　遊んで　いる。
(5) 走り終わった　彼は　ゆっくりと　歩き始めた。

3 **次の文は、それぞれどんな文の成分からできているか。文の成分を表す記号（線）を左下から選び、線を引きなさい。**

例　祖父は　のんびり　歩く。

(1) 僕は　覚えたばかりの　英語を　使って　みた。
(2) 私は　北海道の　自然に　強く　ひかれた。
(3) 彼は　ひたすら　写真を　撮り続けた。
(4) 学校には　必ず　校長先生が　いる。

※文の成分を表す記号（線）
主語・主部　‖
述語・述部　―
修飾語・修飾部　〜

④接続語・接続部

理由や条件を表し、あとの部分につながる一文節を接続語という。また、二文節以上で文としての構造をもち、文の中心部分で述べていることの原因・条件・つながりなどを表すものを接続部という。接続部は文の中で次のような働きをする。

① 原因・理由を表す（〜から、〜ので、〜て　などの形）
② 条件を表す（〜ば、〜たら、〜なら、〜と、〜たなら　などの形）
③ 逆接を表す（〜のに、〜けれども、〜ながら、〜が　などの形）

1 **次の文の接続語・接続部に‐‐‐線を引きなさい。**

(1) 雨が降った。そして、雷が鳴った。
(2) 苦しかったが、最後まで泳いだ。
(3) 顔さえはっきり見えないのに、声が届くわけがない。
(4) どうしていいかわからないので、静かにしていた。
(5) 遠い地へ移っていった。しかし、現実は何も変わらなかった。
(6) ホタルはきれいな水にしか住めないため、環境保護が大切だ。

見本

2 **次の文の接続部に‐‐‐線を引き、その働きを例にならって答えなさい。**

例 今年の夏は暑かったので、かき氷がよく売れた。（ 原因・理由 ）

(1) じっくり聴くつもりが、眠くなってしまった。（ 逆接 ）

(2) 冬になったら、スキーに行こう。（ 条件 ）

(3) 野生の動物だったので、人を警戒している。（ 原因・理由 ）

3 **次の二つの文を、意味を変えないで一つの文にしなさい。**

(1) 勉強をする。そうすれば、成績が伸びる。
（ 勉強をすれば、成績が伸びる。 ）

(2) 緊張した。しかし、面接でうまく話すことができた。
（ 緊張したけれども（が）、面接でうまく話すことができた。 ）

(3) 雨が止んだ。すると、虹が出た。
（ 雨が止むと、虹が出た。 ）

(4) 全力で走った。そして、ライバルを抜いた。
（ 全力で走って、ライバルを抜いた。 ）

⑤独立語・独立部

提示・呼びかけ・応答・挨拶・感動など、文の他の部分と直接関係せずに独立している成分を独立語・独立部という。

1 **次の文の独立語・独立部に――線を引きなさい。**

(1) もしもし、そちらに校長先生はみえますか。

(2) 十一月二十三日、この日は「勤労感謝の日」だ。

(3) 山田君と田中君、ちょっと来なさい。

(4) さあ、歩きだそう。

(5) いいえ、母は外出中です。

(6) よし、その計画で進めよう。

(7) 合格の瞬間、この日を夢見ていた。

(8) 生徒諸君、今が大切な時です。

(9) 久しぶり、元気ですか。

(10) やった、あたった。よし、今だ。

2 **次の文の――線部①～⑲の文の成分をあとの□から選び、（　）の中に記号で答えなさい。**

(1) ①（ カ ）真っ赤に染まった夕焼け空を、②（ ア ）赤とんぼが③（ カ ）群れをなして④（ エ ）飛んでいる。

(2) ⑤（ コ ）澄みわたった高原の空気、⑥（ ア ）これこそ⑦（ エ ）一番の栄養だ。

(3) ⑧（ キ ）何度もやめようと思った。⑨（ ウ ）しかし、思いとどまった。

(4) ⑩（ イ ）太陽の光をたくさん浴びた野菜が⑪（ オ ）すくすくと⑫（ エ ）育っている。

(5) ⑬（ コ ）大きくなったね、⑭（ ア ）祖父母は⑮（ オ ）笑顔を⑯（ ウ ）向けた。

(6) ⑰（ ク ）期限が迫っていたので、⑱（ オ ）慌てて⑲（ ウ ）取り組んだ。

ア	主語	イ	主部	ウ	述語
エ	述部	オ	修飾語	カ	修飾部
キ	接続語	ク	接続部	ケ	独立語
コ	独立部				

見本

目次へ戻る

三　まぎらわしい品詞の識別

「ない」の識別

・むずかしくてよくわからない。（○（ぬ））　助動詞（打ち消し）
・彼女は、最近元気がない。（×（ぬ））　形容詞
・それほどは長くない。　補助形容詞（形式形容詞）
・参加人数が少ない。　形容詞の一部

まぎらわしい品詞の識別
練習問題

「ない」には、打ち消しの助動詞と形容詞とがある。
〈識別の仕方〉
① 助動詞……「ない」を「ぬ」に置き換えることができる。
② 形容詞……「ない」の直前に「が・は・も」を入れることができる。

「らしい」の識別

・向こうにいるのは、僕の母らしい。　助動詞（根拠のある推定）
・彼女は、おしとやかでとても女らしい。　形容詞の一部

「らしい」には、根拠のある推定の助動詞と形容詞の一部とがある。
〈識別の仕方〉
① 助動詞……「どうやら～らしい」という意味になる。
② 形容詞の語尾……「いかにも～らしい」という意味になる。

1　次の――線部の「ない」と同じ品詞・働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　私には時間的な余裕がない。※形容詞　（　ウ　）
ア　これは、私のおさないころの写真です。※形容詞の一部
イ　彼の意見は、正しくない。※補助形容詞
ウ　今日は、遊ぶ時間がない。
エ　私は、もう二度と遅刻しないと心に決めた。※助動詞

「～しない」の場合は、「し」を「せ」にすると、「～せぬ」となり、「ぬ」で置き換えられます。したがって、この場合の「ない」は、助動詞となります。

2　次の――線部の「らしい」と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　僕は、自分らしい道を歩んでいこうと決心した。※形容詞の一部　（　ウ　）
ア　この空の様子では、明日は雨になるらしい。※助動詞
イ　向こうにいるおばあさんは、道に迷っているらしい。※助動詞
ウ　彼女は、中学生らしい、さわやかな態度であった。

見本

「で」の識別

・わたしは岡崎市**で**生まれました。（体言につく）**格助詞**
・公園で子供たちが遊ん**で**いる。（補助の関係を作る）**接続助詞**
・あれは教科書**で**、これは問題集です。（「～だ」と断定することができる）**助動詞（断定）**
・海はとても穏やか**で**、静かだった。（「～な」に活用できる）**形容動詞の語尾**

「れる・られる」の識別

・外国人から道を聞か**れる**。**助動詞（受け身）**
・私はどんな野菜でも食べ**られる**。**助動詞（可能）**
・先生が教室に来**られる**。**助動詞（尊敬）**
・小学校のことが思い出さ**れる**。**助動詞（自発）**

「れる・られる」は助動詞で、**受け身、可能、尊敬、自発**の意味がある。

〈識別の仕方〉
① 受け身……「～に～される」という意味になる。
② 可能……「～することができる」と置き換えられる。
③ 尊敬……動作の主語が尊敬すべき人物である。
④ 自発……「自然に～」という意味が含まれる。

3 **次の――線部の「で」と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 風船がふくらんできた。（ア）
(2) 自分の部屋でごろごろしている。（エ）
(3) 今日は五日で、水曜日です。（イ）
(4) その出来事は愉快で、わたしは笑ってしまった。（ウ）

ア 私は今、本を読んでいます。※接続助詞
イ これは国語の教科書である。※助動詞（断定）
ウ その風景はとてもきれいであった。※形容動詞の語尾
エ 私は学校で勉強します。※格助詞（場所）

4 **次の――線部の「られる」と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。**

例 この美しい海をいつまで見られるのだろう。※可能（ウ）

ア 人に見られると手が震えてしまう。※受け身
イ 市長さんが記念樹を植えられる。※尊敬
ウ この高さなら、弟には無理だが僕には降りられる。※可能
エ 考えまいとしても、母のことばかりが案じられる。※自発

見本

「ようだ」の識別

・どうやら、私がまちがっていたようだ。　助動詞（推定）
・今日の暑さは夏のようだ。　助動詞（比喩）

「ようだ」は助動詞で、**推定、比喩**の意味がある。
〈識別の仕方〉
① 推定……「どうやら～のようだ」という意味になる。
② 比喩……「まるで～のようだ」という意味になる。

「そうだ」の識別

・明日は、雨が降りそうだ。　助動詞（推定・様態）
・明日は、雨が降るそうだ。　助動詞（伝聞）

「そうだ」は助動詞で、**推定・様態**と**伝聞**がある。
〈識別の仕方〉
① 推定・様態……「おそらく～だ」「～という様子だ」という意味になる。
連用形に続く。
形容詞・形容動詞の場合は語幹に続く。
② 伝聞……「～という話だ」という意味になる。
終止形に続く。

5 次の――線部の言葉と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。ただし、一つとは限らない。

(1) 星が、プラチナのように光っていた。　（イ・ウ）
(2) 彼も昨日のニュースを見たようだ。　（ア・エ）

ア 同級会にはたくさんの人が来るようだ。　※推定
イ 彼女は、うさぎのように跳ね回った。　※比喩
ウ 私は、兄のような人になりたい。　※比喩
エ 彼の話は嘘ではないようだ。　※推定

6 次の――線部の「そうだ」の働きは、ア推定・様態、イ伝聞のどちらか。記号で答えなさい。

(1) 彼は来年、海外へ旅立つそうだ。　（イ）
(2) 遠くの山が見えそうだ。　（ア）
(3) 彼女ならやりそうなことだ。　（ア）
(4) 明日は、みんな学校へ行くそうだ。　（イ）
(5) あの人たちはとても楽しそうだ。　（ア）
(6) 向こうの林の中は、静かそうだ。　（ア）

見本

「ながら」の識別

・みんなで話し**ながら**帰る。　**接続助詞（同時）**
・わかっている**ながら**答えない。　**接続助詞（逆接）**
・彼は、生まれ**ながら**の天才と呼ばれた。　**接尾語（名詞の一部）**

「ながら」には、**接続助詞（同時・逆接）**と**接尾語**とがある。

〈識別の仕方〉

① 接続助詞（同時）……「ながら」の前後が並立の関係になっている。二つの動作が同時進行している。

② 接続助詞（逆接）……「ながら」の前後が逆接の関係になっている。

③ 接尾語（名詞の一部）…「生まれ」から「ながら」までが一つの単語で、分けることができない。

「の」の識別

・桜**の**（が）咲く季節も、もう近い。　**格助詞（主語を作る）**
・公園**の**中に逃げ込む。　**格助詞（連体修飾語を作る）**
・彼は、泳ぐ**の**（こと）がうまい。　**格助詞（体言の代用）**
・泣く**の**（とか）笑う**の**（とか）と忙しい。　**格助詞（並立を表す）**
・どうして泣く**の**。　**終助詞**

〈識別の仕方〉

① 格助詞（主語を作る）……「の」を「が」に置き換えることができる。

② 格助詞（連体修飾語を作る）…「の」を他の言葉に置き換えることができない。

③ 格助詞（体言の代用）……「の」を「こと・もの」に置き換えることができる。

④ 格助詞（並立を表す）……「の」を「とか」に置き換えることができる。

⑤ 終助詞……文末にある。

7 **次の――線部の「ながら」の意味や働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) 知っていながら、知らん顔をする。（イ）
(2) テレビを見ながら、勉強をしていた。（ア）
(3) 昔ながらの姿をとどめる。（ウ）
(4) 食事をしながら新聞を読む。（ア）
(5) 苦しいながらも力を合わせて進んだ。（イ）
(6) 彼は、若いながらもしっかりしている。（イ）
(7) お茶を飲みながら話し合った。（ア）

ア　同時　　イ　逆接　　ウ　接尾語（名詞の一部）

8 **次の――線部の「の」の働きをあとの□から選び、記号で答えなさい。**

(1) するのしないのといつまでたっても決まらない。（エ）
(2) 絶対に起きることのない現象です。（ア）
(3) 目的地へ向かう途中の出来事です。（イ）
(4) ここにあるのは、私の筆箱です。（ウ）

ア　主語を作る　　イ　連体修飾語を作る
ウ　体言の代用　　エ　並立を表す

見本

練習問題に取り組もう

基本問題

1 次の――線部の「ない」のうち、品詞が異なるものを一つ記号で選び、その品詞名を答えなさい。

ア　水道の水が出ない。
イ　僕は食欲がない。
ウ　心配しないでください。
エ　話の筋が通らない。

記号〔　イ　〕　品詞名〔　形容詞　〕

※他は助動詞

2 次の例文の――線部の助動詞と同じ働きのものをあとから選び、記号で答えなさい。

例　病気の母のことが気遣われる。　※自発　（　ウ　）

ア　朝早く兄に起こされる。　※受け身
イ　図書館までは一人でも行かれる。　※可能
ウ　海を見ると故郷のことが思い出される。　※自発
エ　お客さんが話される。　※尊敬

3 次の――線部「の」と同じ働きのものをあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　やがて彼らは、きれいな小川のあるところに出た。　（　ウ　）
※主語を作る＝が

(2)　彼女は日記を書くのが好きです。　（　イ　）
※体言の代用＝こと

(3)　とても暑い日には風の涼しさがうれしい。　（　ア　）

ア　果物は私の好物です。　※連体修飾語を作る
イ　彼は話すのが得意だ。　※体言の代用
ウ　西の空に夕日の沈むのが見える。　※主語を作る

4 次の各組の――線部の違いがわかるように、それぞれの品詞名を書きなさい。また、助詞の場合は種類も書きなさい。

(1)
ア　私は太宰治の作品が好きだ。　（　格助詞　）
イ　太宰治は好きだが、難解だ。　（　接続助詞　）
ウ　太宰治は好きだ。が、難解だ。　（　接続詞　）

(2)
ア　よく見た。けれど、見えなかった。　（　接続詞　）
イ　よく見たけれど、見えなかった。　（　接続助詞　）

見本

5 次の――線部の助動詞を、A推定・様態の助動詞とB伝聞の助動詞に区別し、記号で答えなさい。

(1) 来月くらいから暑くなりそうだ。（ A ）

(2) もうすぐ彼女も来るそうだ。（ B ）

(3) 彼ならできそうなので、任せることにした。（ A ）

6 次の――線部の助動詞の意味をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 彼女のようないい人はいない。（ イ ）

(2) 事件のことをみんな知っているようだ。（ ア ）

(3) この寒さは冷蔵庫の中にいるようだ。（ イ ）

ア 推定　　イ 比喩

7 次の――線部で推定の助動詞でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア だれも事件の起こった原因を知らないらしい。

イ あそこに立っているのは、どうやら男らしい。

ウ 彼はとても男らしい人だ。 ※形容詞の一部（ ウ ）

8 次の文の助動詞に、――線を引きなさい。

(1) 干ばつでもう一か月も雨が降らない。

(2) 昨日まで元気だったのに、今日彼は欠席だ。

(3) さあ、晴れたから外で遊ぼう。

(4) 明日は雨は降るまい。

(5) ケーキが食べたい。

9 次の文の――線部を、助動詞を使って次のア～ウの意味に合うように書き直しなさい。

(1) 明日は、暑くなる。

ア 伝聞の意味を表すように（ 暑くなるそうだ ）

イ 様態の意味を表すように（ 暑くなりそうだ ）

ウ 否定推量の意味を表すように（ 暑くなるまい ）

(2) 私は、プールに入る。

ア 丁寧の意味を表すように（ 入ります ）

イ 希望の意味を表すように（ 入りたい ）

ウ 過去の意味を表すように（ 入った ）

見本

10 次の――線部の「で」と同じ働きをするものをア～エから選び、記号で答えなさい。

例 台風が接近してきたせいで、旅行は延期になってしまった。 ※原因・理由

ア 港は波も静かで、船出には絶好の日和だ。 ※形容動詞の語尾

イ 家の軒下で、今年もツバメのひながかえった。 ※場所

ウ 久しぶりの雨で、庭の草木も生気を取り戻した。 ※原因・理由

エ プールで子どもたちが泳いでいる。 ※接続助詞 （ ウ ）

11 次の――線部の単語のうち、文法上の性質が他の三つと異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

(1)

ア 静かな時間を過ごす。 ※他は形容動詞

イ 彼は誠実な人柄だ。

ウ 赤ちゃんの小さな手を握る。 ※連体詞

エ 巨大ないん石が落ちた跡がある。 （ ウ ）

(2)

ア 本をじっくり読む。 ※他は副詞

イ もっと勉強しよう。

ウ そんなつもりはまったくない。

エ 息子はたくましく育った。 ※形容詞 （ エ ）

12 次の――線部について、Aの中に形容詞か形容動詞を書きなさい。また、活用形をあとの□から選び、Bに記号で答えなさい。

(1) 近道をすると危険だろう。 A（ 形容動詞 ） B（ ア ）

(2) この問題は、中学生には易しい。 A（ 形容詞 ） B（ ウ ）

(3) 詳しい資料で調べる。 A（ 形容詞 ） B（ エ ）

(4) 彼は穏やかに話し始めた。 A（ 形容動詞 ） B（ イ ）

(5) 小さければ、箱に入るだろう。 A（ 形容詞 ） B（ オ ）

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形　エ 連体形　オ 仮定形

13 次の文の――線部の文節どうしの関係を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 白い雲がゆっくりと青い空に流れている。 （ イ ）

(2) 初めてだが、試しにやってみることにした。 （ ウ ）

ア 主・述の関係　イ 修飾・被修飾の関係

ウ 補助の関係　エ 並立の関係

見本

発展問題

1　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

国際性、国際性とやかましく言われているが、①その基本は、流れるような外国語の能力やきらびやかな学芸の才気や事業のスケールの大きさなのではない。②それは、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという③自覚なのである。その典型になるのが、④名もない行きずりの外国人の私に、口ごもり恥じらいながら⑤示してくれたあの人たちの無償の愛である。求めるところのない隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調である。そうであるとすれば、⑥一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。

（今道友信「温かいスープ」）

(1)　――線①「その」、②「それ」の品詞名をそれぞれ漢字で答えなさい。

①（　連体詞　）　②（　名詞　）

(2)　文章中から形容詞からの転成名詞を二つ抜き出して書きなさい。

（　大きさ　）　（　優しさ　）

(3)　――線③の「ある」の活用の種類と活用形を答えなさい。

種類　（　五段活用　）

活用形（　終止形　）

(4)　――線④、⑤、⑥の「の」の中で、一つだけ働きの異なるものがある。その番号を選んで書きなさい。

※⑤は主語を作る、あとは体言の代用　（　⑤　）

2　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある晩、また「オムレツだけ。」と言ったとき、娘さんのほうが（ア）黙ってパンを二人分添えてくれた。パンは安いから二人分食べ、勘定のとき（イ）パンも一人分しか要求されないので、「①パンは二人分です。」と申し出たら、人さし指をそっと唇に当て、目で笑いながら首を振り、他の（ウ）客にわからないようにして②一人分しか受け取らなかった。私は何か心の（エ）温まる思いで、③「ありがとう。」と、かすれた声で言ってその店を出た。月末のオムレツの夜は、それ以後、いつも半額の二人前のパンが④あった。

（今道友信「温かいスープ」）

受け身

(1)　〜〜線ア〜エ「の」の中から働きの異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

※主語を作る、他は連体修飾語を作る　（　エ　）

(2)　――線①〜④の中から他と品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

※③は（転成）名詞、あとは動詞　（　③　）

(3)　右の文章中から、連体詞を二つ抜き出して書きなさい。

（　ある　）（　その　）

(4)　「れ」と意味・用法の同じものを選び、記号で答えなさい。

ア　学級委員として選ばれるのにふさわしい人だ。　※受け身

イ　このごろなぜか幼友達のことが思い出される。　※自発

ウ　先生が詩集を出版されることになりました。　※尊敬

エ　私も今日は三時には出られます。　※可能

（　ア　）

見本

3 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

人類はその①長い歴史の中で、「高い知性をもっているのは人間だけ」という環境を前提として生きてきました。しかし、今や「②人工知能は人間を超える知性だ。」とか、逆に「人間にはできるが人工知能にはできない。」などの、③さまざまな言説が飛び交う時代です。人工知能が社会に浸透し始めた今、それに人間がどう向き合うかが課題となります。

興味深いのは、現在、人工知能を搭載した将棋ソフトと人間の棋士との間で起きている事象が、今後の社会の在り方を先取りしているように思えることです。そこで私は、棋士が④直面している違和感から話を始めたいと思います。

一つは、人工知能の思考は過程がブラックボックスになっていることです。将棋ソフトは、過去の膨大なデータを基に、目の前の局面が有利か不利かの形勢を判断する、評価値とよばれる数値を出します。数がプラスに大きければ大きいほど有利で、マイナスに大きければ大きいほど不利となります。この評価値は⑤極めて有効に働くため、現在はプロ棋士が参考にするようになっています。しかし、膨大な情報をどのように処理してその結論に至ったのか、人間にはわからないのが現状です。社会が人工知能を受容していく中で、意志決定の過程がブラックボックスになることには、多くの人が⑥不安を覚えると思います。

もう一つは、将棋ソフトを使う棋士の間でいわれるのは、人工知能には「恐怖心がない」ということです。人工知能はただただ過去のデータを基に次の一手を⑦選ぶため、人間であれば危険を察知して不安や違和感を覚えるような手でも、平然と指してきます。私たち棋士は、そこに恐怖を感じるのです。これを、⑧例えば人工知能ロボットに置き換えてみると、どうでしょう。安心感や安定感など、人間が無意識に求める価値や倫理を共有していない相手と、安心して社会生活を営めるものでしょうか。私には正直、確信がもてません。

膨大なデータと強大な計算力で最適解を導き出す人工知能。それに対し人間は、経験から⑨つちかった「美意識」を働かせて物事を判断しているといえます。人工知能が社会の⑩あらゆる場面で意志決定に関与するようになれば、人間の「美意識」にはとても受け入れがたい判断をすることもあるでしょう。また、将棋ソフトの評価値が実はそうであるように、人工知能の判断が常に絶対的に正しいわけでもありません。つまり、私たち人間は、どこまで評価値の判断を参考にするかまで含めて、選択肢を考えていくことが必要になります。そして、このような判断力は、普段から自分で考えることでしか、養われないのです。

（羽生善治「人工知能との未来」）

(1) ――線①「その」と品詞が異なるものを一つ選び、記号を答えなさい。また、その品詞名を書きなさい。

ア とある村のはずれ　　イ いわゆる谷の奥で

ウ さる十月十五日　　エ そっと見守ること

記号（　エ　）

※その他は連体詞　品詞名（　副詞　）

(2) ――線②、④の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

②（　上一段　活用　・　未然　形）

④（　サ行変格　活用　・　連用　形）

(3) ――線⑥「れる」と同じ働きのものを一つ選び、記号を答えなさい。

ア 卒業文集を読んで、あのころのことが思い出された。※自発

イ 人はすぐには変われないものだ。※可能

ウ いつの間にか、作品が壊されてしまった。※受け身

エ 校長先生も、遠足に参加された。※尊敬

（　ウ　）

(4) ――線③・⑤・⑦・⑧・⑨・⑩の単語の品詞名を書きなさい。

③（　形容動詞　）⑤（　接続詞　）⑦（　副詞　）

⑧（　接続詞　）⑨（　動詞　）⑩（　連体詞　）

見本

4 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

人工知能が浸透する[a]社会であっても、むしろそのような社会だからこそ、私たちは今後も自分で思考し、判断していく必要があるといえます。人工知能への違和感や不安を拭い去るのは[①]難しいことですが、このような社会の到来が[b]避けられない以上、人工知能をいわば、「仮想敵」のように位置づけてリスクを危惧するより、今後どのように対応するかを考えていくほうが現実的ではないでしょうか。

さらにいえば、人工知能は、うまく活用すれば[②]人間にとって大きな力となるはずです。将棋ソフトは人間が考えもしない[③]手を指すと述べましたが、それは、自分の視座が変わるような見方を教えてくれるということでもあります。「自分はこう思うが、人工知能はどう判断するのか。」と、あくまでセカンドオピニオンとして人工知能を使っていく道もあるでしょう。また、人工知能が出した[④]結論を基に、それが導き出された過程を分析し、自分の思考の幅を広げていく道もあるはずです。人工知能に全ての判断を委ねるのではなく、人工知能から新たな思考やものの見方をつむいでいこうとする発想のほうが、より建設的だと思います。[⑤]

実際、将棋界では既に、人工知能が提示[⑥]したアイデアを参考に新しい手が生み出されたり、そこから将棋の技術が進歩したりするケースが多く起こっています。人工知能によって人間の「美意識」そのものが[c]変わって いる顕著な事例だといえるでしょう。人工知能が学習するいっぽうで、人間の側も人工知能から学ぶ。[d]人間と 人工知能が共に生きる[⑦]時代の、新しい関係がそこにあるように思います。

（羽生善治「人工知能との未来」）

(1) 〜線a〜dの文節相互の関係を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

a（ イ ） b（ ア ） c（ エ ） d（ ウ ）

ア 主・述の関係　イ 修飾・被修飾の関係
ウ 並立の関係　エ 補助の関係

(2) ——線①「の」と同じ働きのものを選び、その記号を答えなさい。（ ウ ）

ア 雨はやんだの。　イ 私の鉛筆です。
ウ 怒るのは、いやだ。　エ 暑いので、泳ぐ。

(3) ——線②「考え」は、転成名詞です。もとの語とその品詞名を書きなさい。

もとの語（ 考える ）
品詞名（ 動詞 ）

(4) ——線③「ない」と同じ働きのものを選び、記号で答えなさい。（ ア ）

ア 曇っていて星が見えない。　否定の助動詞
イ 今週は休みがない。　形容詞
ウ 今年は雨が少ない。　形容詞の一部
エ 昨日のけがはもう痛くない。　補助形容詞

(5) ——線④⑤⑥⑦の動詞の活用の種類と活用形を書きなさい。

	活用の種類	活用形
④	下一段活用	連用形
⑤	五段活用	連用形
⑥	サ行変格活用	連用形
⑦	上一段活用	連体形

(6) 第一段落から副詞を二つ抜き出して書きなさい。

（ むしろ ）（ いわば ）
※「いえます」を修飾　※「仮想敵」を修飾

見本

5 次の活用表の①～⑳の空欄をうめなさい。

口語動詞活用表

活用の種類		五段活用				上一段活用		下一段活用		変格活用	
	語例	行く	笑う	運ぶ	ある	生きる	似る	答える	出る	カ変	サ変
活用形	主な続き方 ＼ 語幹	い	わら	はこ	あ	い	（に）	こた	（で）	来る	する
未然形	―ない・ぬ ―う・よう ―れる・られる ―せる・させる	か こ	〔②わ〕 お	ば ぼ	ろ （ら）	き	に	え	〔⑧で〕	こ	し せ 〔⑩さ〕
連用形	―ます ―た（だ） ―て（で）	き っ	い っ	び 〔③ん〕	り っ	〔⑤き〕	に	え	で	き	し
終止形	―。	く	う	ぶ	る	きる	にる	える	でる	くる	する
連体形	―とき ―ので	く	う	ぶ	〔④る〕	きる	〔⑥にる〕	〔⑦える〕	でる	くる	する
仮定形	―ば	〔①け〕	え	べ	れ	きれ	にれ	えれ	でれ	くれ	すれ
命令形	―。	け	え	べ	（れ）	きろ	にろ	えろ	でろ	〔⑨こい〕	しろ

口語形容詞活用表

	語例	明るい	早い	新しい
活用形	主な続き方 ＼ 語幹	あかる	はや	あたらし
未然形	―う		〔⑪かろ〕	
連用形	―た ―ない ―なる ―ございます	〔⑫かっ〕 〔⑬く〕 〔⑭う〕 かっ く かっ く		
終止形	―。		〔⑮い〕	
連体形	―とき ―ので		〔⑯い〕	
仮定形	―ば		〔⑰けれ〕	
命令形	―。		○	

口語形容動詞活用表

	語例	爽やかだ	重要だ	爽やかです 重要です
活用形	主な続き方 ＼ 語幹	さわやか	じゅうよう	さわやか じゅうよう
未然形	―う		〔⑱だろ〕	でしょ
連用形	―た ―ない ―なる	だっ で に		〔⑳でし〕
終止形	―。	だ		です
連体形	―とき ―ので	〔⑲な〕		（です）
仮定形	―ば	なら		○
命令形	―。	○		○

見本

6 **次の文の動詞に――線を引き、その活用の種類と活用形を書きなさい。**

(1) 夜もふけて、街は暗く静かだ。

活用の種類（　下一段活用　）　活用形（　連用形　）

(2) 親友の弟は彼に似て、心が優しい。

活用の種類（　上一段活用　）　活用形（　連用形　）

(3) 坂田君のコメントに、小山君は反応しない。

活用の種類（　サ行変格活用　）　活用形（　未然形　）

7 **次の文から形容詞と形容動詞を一つずつ抜き出し、その活用形を書きなさい。**

例　兄に対して爽やかなイメージをもつ人がいて、私はうれしかった。

形容詞　（　うれしかっ　）　活用形（　連用形　）

形容動詞（　爽やかな　）　活用形（　連体形　）

8 **次の文の連文節に――線を引きなさい。**

(1) 校長先生は　南中の　ソフトボール部を　全校集会で　表彰した。

(2) 青い　鳥が　かごの　中で　美しく　鳴く。

9 **次の文の副詞とそれが修飾している文節を例にならって結びなさい。また、修飾されている部分の品詞名を書きなさい。**

例　カエルのことが好きな理由がはっきり　わかったようだ。

品詞（　動詞・助動詞・助動詞　）

(1) 十一月に半袖は少し寒い。

品詞（　形容詞　）

(2) 今日の文化祭の発表は、たいへん愉快だった。

品詞（　形容動詞・助動詞　）

(3) 明日小テストがあることを、ふと思い出した。

品詞（　動詞・助動詞　）

10 **次の例文と品詞の構成が同じものを選び、その記号を答えなさい。**

例　わあ愉快。（　感動詞・形容動詞の語幹　）

ア　おお寒。　イ　おや暗い。　ウ　とてもおだやか。

エ　実に興味深い。　オ　あらきれい。　カ　おい集合。

（　オ　）

見本

目次へ戻る

Ⅱ 言葉の学習

一 類義語・対義語・多義語

(一) 類義語

類義語……似た意味をもつ語のグループ

類義語の熟語は、その組み立てから次の三つに分類される。

① 一字が共通のもの　例　案外＝意外　改良＝改善　続行＝継続

② 上下が逆のもの　例　習慣＝慣習　対応＝応対

③ 全体として意味が類義となっているもの

例　手段＝方法　簡単＝容易　美点＝利点＝長所

(二) 対義語

対義語……意味が反対の関係や対の関係にある二語

対義語の熟語は、その組み立てや意味によって対比する語が変わる。

例　鋭角⇔鈍角　加害⇔被害　最悪⇔最善　過疎⇔過密

拡大⇔縮小　支出⇔収入　原因⇔結果　人工⇔天然・自然

(三) 多義語

多義語……一つの語で多くの意味や用法をもつ語

例　事件が起きる。（何かが発生する。起こる。）

朝早く起きる。（眠りから覚める。）

転んでもすぐ起きる。（横になっていたものが体を起こす。）

学習のねらい

◇ 類義語・対義語・多義語を復習する。

◇ 敬語の使い方を復習する。

◇ 和語・漢語・外来語を相手や場面に応じて選んで用いる。

1 次の言葉の対義語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 単純（ク）　(2) 創造（ア）　(3) 拡大（ウ）

(4) 一般（エ）　(5) 客観（カ）　(6) 権利（オ）

(7) 口語（イ）　(8) 困難（ケ）　(9) 苦手（キ）

ア 模倣　イ 文語　ウ 縮小　エ 特殊　オ 義務　カ 主観　キ 得意　ク 複雑　ケ 容易

2 次の言葉の類義語をあとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 欠点（ア）　(2) 材料（ウ）　(3) 賛成（オ）

(4) 安全（ケ）　(5) 有名（キ）　(6) 意外（エ）

(7) 進歩（イ）　(8) 方法（カ）　(9) 納得（ク）

ア 短所　イ 発達　ウ 原料　エ 案外　オ 同意　カ 手段　キ 著名　ク 了解　ケ 無事

3 次の――線部の言葉の意味として適当なものを、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 竹刀で面を打つ。（ウ）　(2) 先手を打つ。（オ）

(3) そばを打つ。（エ）　(4) 滝に打たれる。（ア）

(5) 彼の演技が心を打つ。（イ）

ア 雨・風・波などが物に激しく当たる。　イ 感動させる。

ウ 強くたたく。　エ 材料・素材をたたいて、その物を作り出す。

オ ある計画などを実行する。手段、方策を講じる。

見本

目次へ戻る

二　敬語

(一)　丁寧語

丁寧語……話し手（書き手）が聞き手（読み手）に対して丁寧さを表す敬語。

① **助動詞（断定）「だ」を「です」に言い換える。**
給食だ。　→　給食です。

② **助動詞（丁寧）「ます」を付ける。**
六時に起きる。　→　六時に起きます。

③ **特別に丁寧な言い方「（で）ございます」を用いる。**
これが注文の品よ。　→　これが注文の品でございます。

※美化語「お風呂」「お湯」「お菓子」「ご飯」

(二)　尊敬語

尊敬語……話題の中の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**
行く・来る　→　いらっしゃる・おいでになる
いる　→　いらっしゃる・おいでになる
言う・話す　→　おっしゃる
見る　→　ご覧になる
食べる　→　召し上がる
する　→　なさる
くれる　→　くださる

② **「お（ご・御）～になる」を付け加える。**
聞く　→　お聞きになる
疲れる　→　お疲れになる

③ **助動詞（尊敬）「れる・られる」を付ける。**
思う　→　思われる
上達する　→　上達される
来る　→　来られる
受ける　→　受けられる
受けられる

動詞全般に使える形

④ **敬意を表す接頭語・接尾語を付ける。**
お宅　御社　御案内　貴校　尊父（〇〇からの）お手紙・ご意見
鈴木様　姉さん　田中君（※宛名→～会社　御中）

⑤ **名詞**
～方（かた）　あなた　どなた

(三)　謙譲語

謙譲語……話し手（書き手）自身がへりくだることによって、動作・行為が向かう先に対して敬意を表す敬語。

例
・今すぐ行きます。→今すぐ参ります。（伺います。）
・先生に学級日誌を渡す。→先生に学級日誌をお渡しする。
・この本を借ります。→この本をお借りします。
×お父さんは家にいません。→〇父は、家におりません。

謙譲語は自分の所有物や行動、また自分の身近なものに対して使われます。身内（自分の家族、同僚）のことを他人に言う場合には、身内の者に尊敬語は使わず、謙譲語を使います。

① **動詞（敬語動詞）に置き換える。**
行く・来る　→　伺う・参る
いる　→　おる
言う・話す　→　申す・申し上げる
見る　→　拝見する
食べる　→　いただく
もらう　→　いただく
する　→　いたす
聞く　→　伺う・承る
知る・思う　→　存じる
やる　→　あげる・差し上げる

② **「お（ご・御）～する」を付け加える。**
持つ　→　お持ちする
説明する　→　ご説明する
届ける　→　お届けする

動詞全般に使える形

③ **謙譲の意を表す接頭語・接尾語を付ける。**
粗品　拙宅　弊社　寸志　愚見　お手紙　ご意見　私ども　私め

見本

練習問題に取り組もう

1 **次の文を尊敬語を使った表現に直しなさい。**

(1) お客さんが来た。
（例 お客さんがいらっしゃった。（お客様が）（来られた。））

(2) これを食べますか。
（例 こちらを召し上がりますか。（こちらをお食べになりますか。）（食べられますか。））

(3) 社長の言うとおりです。
（例 社長のおっしゃるとおりです。（言われるとおりです。））

(4) 先生が、賞状をくれた。
（例 先生が、賞状をくださった。）

(5) あの人は、もう帰りました。
（例 あの方は、もうお帰りになりました。（帰られました。））

2 **次の文を謙譲語を使った表現に直しなさい。**

(1) 先生から記念品をもらいました。
（例 先生から記念品をいただきました。）

(2) 「よろしく。」と父が言っていました。
（例 「よろしく。」と父が申しておりました。（申し上げておりました。））

(3) お父さんは会社へいらっしゃいました。
（例 父は会社へ参りました。）

(4) 私のお兄さんがそうおっしゃいました。
（例 私の兄がそう申しました。）

3 **次の――線部の敬語の種類を書きなさい。**

(1) 先生が、ご自身でさし絵を描かれ①（尊敬語）②（尊敬語）ました。③（丁寧語）

(2) 俳句を研究されている大橋先生に、指導していただき①（謙譲語）②（丁寧語）ます。

4 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

聞き手に対し、自分が書く場合は「A」といい、先生が書く場合は「B」という。自分がへりくだる「C」が「お…する」で、人の動作を高める「D」は「お…になる」だと、一応心得たつもりでも、いざとなると混同しがちである。

ある駅で、「切符をお持ちしていない方は①…」というのを聞いて、「E」ではないかと、人のまちがいには気づいても、自分が人に道を聞かれると、「あそこの交番でお聞きしてください②。」と言ってしまうのだ。むろんここは「F」でないといけない。

(1) A～Dに入る適切な語を、次のア～オから選び、記号で書きなさい。

ア お書きになる　イ お書きする
ウ 尊敬語　エ 謙譲語　オ 丁寧語

A（イ）　B（ア）　C（エ）　D（ウ）

(2) E・Fに適するように、――線①・②を正しい敬語に直して書きなさい。

①（お持ちになら）ない方
②（お聞きになって）ください。

5 **次の文章の――線部の敬語は誰が・誰を敬って使ったものか。答えはあとの表に書きなさい。**

(1) 父は、「私がいたします。」と祖父に言った。

(2) 「先生が、がんばりなさいとおっしゃっていたよ。」と母が私に言いました。

	誰が	誰を
(1)	父	祖父
(2)	母	先生

見本

目次へ戻る

三　和語・漢語・外来語

(一)　和語

もともと日本で使われていた語を**和語**（大和言葉）という。普通、平仮名で書かれたり、漢字の訓読みで表されたりする。

例　月・味・流れ・言い訳・誠・のんびり・とても・この・小さな・読む・明るい・うつくしい・言葉

和語は、親しみやすく意味を捉えやすいので、日常会話でよく用いられます。

(二)　漢語

漢字の音読みが使われる語を**漢語**という。漢語には、中国で作られて日本に入ってきた語と、日本で作られた語がある。

例　歓迎・発言・課程・厳格・誠実・愛・道路・選択・綺麗

漢語は抽象的な意味を表し、硬い語感をもつ傾向があります。社会制度や専門的な知識を表す語も多く、ニュースや新聞などでよく使われます。

(三)　外来語

漢語以外で外国語から日本語に取り入れられた語を**外来語**という。普通、片仮名で書かれるが、「てんぷら」「歌留多」のように平仮名や漢字で書かれる場合もある。

例　メッセージ・コミュニケーション・サービス・スピーチ・カステラ・ゴム・サイン・スタイル・トレーニング・カルテ・コップ・パン・コント・ハッピー・ラッキー

外来語は外国から入ってきた物の名前や学問の用語、新しい感覚などを表すのに使われています。

また、和語・漢語・外来語が組み合わさってできた語を**混種語**といいます。

例　模様替え（漢語＋和語）　天然ゴム（漢語＋外来語）
ガラス窓（外来語＋和語）

学習を確かめよう

1　次の例文の（　　）の中の言葉を和語・漢語・外来語にそれぞれ言い換えなさい。

(1)　例　高速道路を時速百キロの（速さ）で走る。
①　高速道路を時速百キロの（速度）で走る。←漢語に
②　高速道路を時速百キロの（スピード）で走る。←外来語に

(2)　例　私は宇宙人からの（メッセージ）を受け取った。
①　私は宇宙人からの（伝言）を受け取った。←漢語に
②　私は宇宙人からの（言葉）を受け取った。←和語に
（ことづて、ことづけ）

見本

目次へ戻る

四　慣用句

慣用句とは、二語以上の単語で構成され、その全体が元の語の意味から離れた意味を表すようになったものである。イディオムともいう。慣用句は、会話や文章上で定型句として用いられる。うまく使えるようになると表現が豊かになる。

1　次の各組の（　）には、体の一部を指す同じ漢字が入ります。漢字一字を書き、慣用句を完成させなさい。

(1)（　）を疑う・（　）を貸す・（　）をそろえる　…【耳】
(2)（　）が軽い・（　）火をきる・（　）車に乗る　…【口】
(3)（　）を焼く・（　）を打つ・（　）が空く　…【手】
(4)（　）につく・（　）を折る・（　）をあかす　…【鼻】
(5)（　）に余る・（　）が利く・（　）が回る　…【目】

2　（　）から正しい慣用句を選び、文を完成させなさい。

(1) 丸山先生は（舌先三寸・口先三寸）の生徒を叱った。
(2) 彼女の意見はいつも的を（得て・射て）いる。
(3) 先輩は大会で雪辱を（果たし・晴らし）た。
(4) 兄は寸暇を（惜しまず・惜しんで）体を鍛えた。

3　次の慣用句の意味を、下の□からそれぞれ選び、記号を答えなさい。

(1) 力の限りを尽くして努力すること　（コ）
(2) もうどうしようもないとあきらめること　（オ）
(3) 気持ちを引きしめて、人や物に接すること　（ア）
(4) 意見が出尽くして結論が出る段階になること　（ケ）
(5) びっくりして顔色が青ざめること　（ウ）
(6) 何の遠慮もなく、心からうちとけられること　（イ）
(7) 物事を求める気持ちになること　（カ）
(8) 分かりきっていることをさらに確かめること　（キ）
(9) いましめのために、つらい思いをさせること　（エ）
(10) じっくり話すため、向かい合って座ること　（ク）

ア	襟を正す
イ	気が置けない
ウ	色を失う
エ	灸（きゅう）をすえる
オ	さじを投げる
カ	食指が動く
キ	だめを押す
ク	膝をつき合わせる
ケ	煮詰まる
コ	心血を注ぐ

4　次の文の（　）に合う慣用句を3の問題の選択肢から選び、記号で答えなさい。

(1) 彼は約束を何度も破るので、一度（エ）必要がある。
(2) 陸上部の小島君と伊藤君はクラスでも部活動でも（イ）仲だ。
(3) 難しい問題でも、すぐに（オ）ことはよくない。
(4) 僕は大事な相談をするときは、彼と（ク）。
(5) 先生は、クラスの合唱が上手くなるように（コ）。
(6) 僕たちがリードしていた。さらに八回の（キ）ホームランで勝った。
(7) 話し合いが十分に（ケ）と、司会者の表情が変わった。

見本

目次へ戻る

五　故事成語

中国の古典に由来し、歴史的な事実や言い伝えを基に作られた言葉を**故事成語**という。

1　次の故事にあてはまる故事成語を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

故事成語（　イ　）

ある国境の塞の近くに住んでいる人で、占いにたけた人がいた。あるとき、どういう訳か、この人の馬が逃げ出して異民族の地へ行ってしまった。人々が皆これを慰めると、その老人は、

「このことがきっと福となろう。」といった。

数カ月後、その逃げた馬が異民族の駿馬（しゅんめ）を連れて帰ってきた。人々が皆これを祝うと、老人は

「これは災いになるであろう。」といった。

この家によい馬が増えたので、息子が乗馬を好み、そのうちに落馬をして足の骨を折ってしまった。人々が皆これを慰めると、老人は、

「これが福となろう。」といった。

一年たつと、異民族が大挙して塞へ攻め込んできた。若者たちは弓を引き戦った。塞の近くの人は十人中九人が死んだ。ただ、この家の息子は脚が悪かったので兵役に駆り出されず、親子ともども無事だった。

このように福が禍となり、禍が福となる。その変化はとうてい明らかにすることはできず、その深さは、とても計り知れない。

ア 杞憂　イ 塞翁が馬　ウ 背水の陣　エ 大器晩成　オ 蛇足　カ 呉越同舟

2　次の□に入る漢字一字を（　）に書き、故事成語を完成させなさい。また、読み方を全てひらがなで書きなさい。

	漢字	読み方
(1) 画□点睛	（竜）	（がりょうてんせい（りゅう））
(2) 竜頭□尾	（蛇）	（りゅうとうだび）
(3) 蛍□の功	（雪）	（けいせつのこう）
(4) 朝三暮□	（四）	（ちょうさんぼし）
(5) 千□一遇	（載）	（せんざいいちぐう）

3　次の故事成語の意味を、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1) 漁夫の利（エ）
(2) 呉越同舟（ウ）
(3) 五十歩百歩（イ）
(4) 羊頭狗肉（カ）
(5) 朝令暮改（オ）
(6) 助長（ア）

ア 成長を早めるつもりで、無理に力を加え、かえって害すること。助けて育てること。また、ある傾向をより著しくさせること。

イ 似たりよったりで、たいして違いがない。本質的な相違はないこと。

ウ 仲の悪いもの同士が同じ場所や境遇にいること。そういう者たちがやむを得ず協力すること。

エ 人と人とが争っている間に、第三者が利益を得てしまうこと。

オ 朝に出した法令を夕方にはもう改めること。方針などが絶えず改まって定まらぬこと。

カ 表面と内容が一致しないことのたとえ。見せかけだけで内容が伴わないこと。

見本

目次へ戻る

六　ことわざ

古くから世間で言いならわされてきた、生活上の知恵や教訓が込められた言葉を**ことわざ**という。ことわざは、誰もが共感できるようなたとえで表されたものが多い。

1　次のことわざの意味として適切なものを、あとの□から選び、記号で答えなさい。

(1)　とびがたかを生む　（　エ　）
(2)　医者の不養生　（　ア　）
(3)　犬も歩けば棒に当たる　（　イ　）
(4)　えびで鯛を釣る　（　オ　）
(5)　雨降って地固まる　（　カ　）
(6)　餅は餅屋　（　ウ　）

ア　専門家はかえって自分のことはかまわない。
イ　行動すれば、何か災いや幸せにあうものだ。
ウ　物事にはそれぞれ専門家があり、素人はとてもかなわない。
エ　平凡な親から非凡な才能の子が生まれる。
オ　わずかな元手で大きな利益を得る。
カ　悪いことなどがあったあとは、前よりかえってよくなる。

2　次のことわざの（　　）に入る言葉を書きなさい。

(1)　急がば（　回れ　）
(2)　悪事（　千里　）を走る
(3)　泣き面に（　蜂　）
(4)　知らぬが（　仏　）

3　次のことわざと、(1)〜(4)は同じ意味のものを、(5)〜(8)は反対の意味のものをあとの□から選び、記号で答えなさい。

同じ意味
(1)　弘法も筆の誤り　（　エ　）
(2)　提灯に釣り鐘　（　キ　）
(3)　猫に小判　（　ア　）
(4)　のれんに腕押し　（　カ　）

反対の意味
(5)　立つ鳥跡を濁さず　（　ク　）
(6)　棚からぼた餅　（　オ　）
(7)　案ずるより産むが易し　（　イ　）
(8)　せいては事を仕損じる　（　ウ　）

ア　馬の耳に念仏
イ　石橋をたたいて渡る
ウ　善は急げ
エ　猿も木から落ちる
オ　まかぬ種は生えぬ
カ　ぬかに釘
キ　月とすっぽん
ク　あとは野となれ山となれ

見本

Ⅲ 文語のきまり

一 歴史的仮名遣い

仮名遣いと発音

① **「を・ゐ・ゑ」を「お・い・え」と読む。**
（例）をがむ→おがむ　まゐる→まいる
くれなゐ→くれない　こゑ→こえ

② **語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、「わ・い・う・え・お」と読む。**
（例）つはもの→つわもの　向かひて→向かいて　買ふ→買う
かたへ→かたえ　ほのほ→ほのお

③ **「au・iu・eu」は、「ô・yû・yô」と読む。**
（例）更衣（kauい）→こうい（kôi）
幽霊（iurei）→ゆうれい（yûrei）
苗字（meuzi）→みょうじ（myôzi）

④ **語の途中に「ふ」のある時は「う」にして、③の原則に従う。**
（例）尊く→たうとく（tautoku）→とうとく（tôtoku）
扇→あうぎ（augi）→おうぎ（ôgi）

⑤ **「ぢ」「づ」は、「じ」「ず」と読む。**
（例）ぢめん「地面」→じめん　しみづ「清水」→しみず

⑥ **「くわ」「ぐわ」は、「か」「が」と読む。**
（例）くわし「菓子」→かし　ぐわいこく「外国」→がいこく

⑦ **「む」は、「ん」と読むことがある。**
（例）なむ→なん　けむ→けん　らむ→らん

学習のねらい

◇ 歴史的仮名遣いで書かれた文章の読み方を学ぶ。
◇ 古語と現代語との違いをとらえる。
◇ 係り結びなどの表現のきまりを学ぶ。

学習を確かめよう

月日は百代の①過客にして、②行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口③とらへて老いを④迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとす。古人も多く旅に死せるあり。予も⑤いづれの年よりか、片雲の風に⑥さそはれて、漂白の⑦思ひやまず、……後略……

「おくのほそ道」から

次の言葉を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

① くわかく →（かかく）
② 行きかふ →（ゆきこう）
③ とらへて →（とらえて）
④ 迎ふる →（むこうる）
⑤ いづれ →（いずれ）
⑥ さそはれて →（さそわれて）
⑦ 思ひやまず →（おもいやまず）

見本

目次へ戻る

二　古語のいろいろ

春はあけぼの。夏は夜。秋は夕暮れ。冬はつとめて。

有名な清少納言作『枕草子（第一段）』に出てくる言葉で、**「あけぼの」**は**夜が明ける頃**を意味し、**「つとめて」**とは**早朝**を意味する。このように現代ではあまり使われない言葉、そして、現代語とは意味の違う言葉が古語にはある。古語の意味を的確に理解し、古人の感性に触れることが、古典の学習で大切なことである。

◇古典の中に出てくる一日の時間帯を表す言葉

夜明け	あかつき（夜があけるまで）
	あけぼの（夜があける頃）
	有明け（月が空にある夜明け）
早朝	つとめて
朝	あさ・あした
正午ころ	ひるつかた
夕方	ゆふべ・ゆふぐれ
	たそがれ・くれかた
夜	よる・よひ
深夜	よなか・よふけ
一晩中	よもすがら
一日中	ひねもす・日暮し

古典の中に出てくる言葉（写真）

◇古典の中に出てくる月の呼び名

有明（ありあけ）の月	夜があけても空に残っている月
夕月夜（ゆうづくよ）	夕方にはすでに出ている月
立待月（たちまちづき）	立って待つ間にすぐ出る月（十七日頃）
居待月（いまちづき）	座って待っていないと出ない月（十八日頃）

学習を確かめよう

次の時間を表す古語を（　）に書きなさい。

(1) 一日中（ひねもす　日暮し）
(2) 早朝（つとめて）
(3) 一晩中（よもすがら）
(4) 正午ころ（ひるつかた）

練習問題に取り組もう

基本問題

1 **現代とは意味の異なる次の古語の意味を、古語辞典を使って調べなさい。**

(1) うつくし →（かわいらしい）
(2) をかし →（趣がある）
(3) あやし →（不思議に思う）

2 **現代では用いられない次の古語の意味を、古語辞典を使って調べなさい。**

(1) さらなり →（言うまでもない）
(2) つきづきし →（似つかわしい）
(3) 玉の緒 →（命）

3 **次の古語の具体的な意味を、古語辞典を使って調べなさい。**

(1) あそび →（管楽の遊び）
(2) まらうど →（客）
(3) ことのは →（ことば・和歌）

見本

三　係り結び

「ぞ・なむ・こそ」は、上の語を強く指示する強意を表し、「や・か」は「だろうか」（疑問）「～か、いや～だ」（反語）の意味を表す。

「ぞ・なむ・や・か」は連体形で結ぶ

人はいさ　心も知らず　ふるさとは
花ぞ昔の　香ににほひける

（意味）　人の心のうちはさあどうだかわかりませんが、ふるさとの梅の花だけは昔のままの香りで咲いていますね。

もと光る竹なむ一筋ありける

（意味）　根元の光る竹が一本あった。

「こそ」は已然形で結ぶ

※「已然」とは、すでにそうなっている意。確定の条件を表す。

道の辺に　清水流るる　柳かげ
しばしとてこそ　立ちどまりつれ

（意味）　涼しげに清水が流れる道のほとりの柳の木陰。しばらくと思って立ちどまった。（あまりに涼しいので長居をしてしまったよ）

学習を確かめよう

1　次の文で「係り結び」になっているところに――線を引きなさい。

例　風の音にぞおどろかれぬる。

(1)　その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

(2)　人の世は水のあわにや似たりける。

(3)　聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。

2　次の――線部の語を係り結びの法則に従って直しなさい。

(1)　名をば、さぬきのみやつことなむいひけり。
→（　ける　）

(2)　そこはかとなく書きつくれば あやしうこそものぐるほしけり。
→（　けれ　）

(3)　生きとし生けるもの いづれか歌をよまざりけり。
→（　ける　）

(4)　あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたり。
→（　たる　）

見本

練習問題に取り組もう

1 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

〔文語文〕①よろづのことよりも情あるこそ、男はさらなり、女もめでたくおぼゆれ。なげのことばなれど、せちに心にふかく入らねど、②いとほしきことをば「いとほし」とも、あはれなるをば「げにいかに思ふらん」などいひけるを、伝へて聞きたるは、さし向ひていふよりもうれし。いかでこの人に、思ひ知りけりとも見えにしがな、とつねにこそ［④］。

⑤かならず思ふべき人、とふべき人は、さるべきことなれば、とり分かれしもせず。さもあるまじき人の、さしいらへをもうしろやすくしたるは、うれしきわざなり。いとやすきことなれど、さらにえあらぬことぞかし。

〔現代語訳〕何事につけても情の深いのが、男はいうまでもないが、女も結構に思われる。ちょっとした言葉でも、心底から言うことでなくても、気の毒なことには「お気の毒です」と言い、あわれなことには「本当にどんなお気持ちでしょう」など言ったのを、人づてに聞いたときには、面と向かって言ってくれるよりもうれしい。何とかしてこの人に「（お言葉が）身にしみたことです」と知ってもらいたい、といつも⑥感ずることだ。

［⑦］や、訪れてくれたりするはずの人は、それが当然だから、特にうれしいこともない。そんなはずはなさそうな人が、ちょっとした返事でも、頼もしげにしてくれたのは、うれしいものだ。⑧こんなことは、いかにも造作ないことなのだが、めったにあり得ないことなのだ。

（「枕草子」二六九段）

(1) ——線①「よろづ」、②「いとほしき」、③「いふ」を現代仮名遣いに書き直しなさい。

①（　よろず　）　②（　いとおしき　）　③（　いう　）

(2) ［④］に、——線⑥「感ずることだ」という意味の古語を入れる場合、最も適当なものを次から選びなさい。

ア　おぼゆ　　イ　おぼゆれ　　ウ　おぼゆる　　エ　おぼえよ

※「こそ」があるため係り結びとなるので已然形で終わる（　イ　）

(3) ——線⑤「かならず思ふべき人」の現代語訳として、［⑦］にあてはまる適当な言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

ア　自分のことをきっと気にかけてくれる人
イ　自分が誰よりも心配しなくてはならない人
ウ　自分のことを全く気にかけない人
エ　自分がいつもかならず仲良くしている人

（　ア　）

(4) ——線⑧「こんなこと」とは、どんな内容をさすか。原文中から抜き出し、初めと終わりの三文字を書きなさい。

初め（　さもあ　）　終わり（　したる　）

(5) この文章で、筆者が最も述べたかったのはどんなことか。その一文を原文中から抜き出し、初めの四文字を書きなさい。

（　よろづの　）

見本

2 **次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、はじめの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ。」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろそかにせんと思はんや。懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。この戒め万事にわたるべし。

道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す。いはんや、一刹那のうちにおいて、[E]あることを知らんや。何ぞ、ただいまの一念において、ただちにすることのはなはだかたき。

（「徒然草」九二段）

※1　なほざりの心……ものごとに本気で取り組まずおろそかにする心

※2　懈怠の心……なまける心

※3　一刹那……非常に短い時間

現代語訳

(1) ――線ア～オの語句を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

ア　習ふ　（なろう　ならう）　イ　向かふ　（むこう　むかう）

ウ　いはく　（いわく）　エ　なほざり　（なおざり）

オ　わづかに　（わずかに）

(2) ――線①③において、省略されている助詞を正しく入れて書きなさい。

①　弓射ること　（弓を射ること）

③　師これを知る　（師はこれを知る）

(3) ――線A～Dの「の」の使い方において、一つだけ違うものを選び、記号で答えなさい。

※主語を作る、あとは連体修飾語を作る

（A）

(4) ――線②⑤の主語・主部を書きなさい。

②　言ふ　（師の）

⑤　期す　（道を学する人）

(5) ――線④「この戒め」とは、どういうことか書きなさい。

（例　弓を初めて習う人は、弓を射るときに二本の矢を持って射てはならないということ。）

(6) [E]にあてはまる語句を文章中より選び、四字で書きなさい。

（懈怠の心）

(7) ⑥「ぞ～かたき。」のような、文意を強調するきまりを何というか。

（係り結び）

見本

◎品詞分類表（口語）…文法上の性質によって単語を分類した表

- 単語
  - 自立語
    - 活用する
      - 述語になる（用言）
        - ウ段で終わる → **1 動詞**
          動作・変化・存在を表す
          〈例〉歌う・ある
        - 「い」で終わる → **2 形容詞**
          状態・性質を表す
          〈例〉楽しい・美しい
        - 「だ」「です」で終わる → **3 形容動詞**
          状態・性質を表す
          〈例〉変だ・きれいだ
    - 活用しない
      - 主語になる（体言） → **4 名詞**
          生き物・物・事などを表す
          〈例〉犬・机・彼
      - 修飾語になる
        - 主に連用修飾語になる → **5 副詞**
          主に用言を修飾する
          〈例〉ゆっくり・もし
        - 連体修飾語になる → **6 連体詞**
          体言だけを修飾する
          〈例〉この・大きな
      - 接続語になる → **7 接続詞**
          主に文と文をつなぐ
          〈例〉だから・しかし
      - 独立語になる → **8 感動詞**
          感動・呼びかけ・応答を表す
          〈例〉あら・はい
  - 付属語
    - 活用する → **9 助動詞**
          〈例〉たい・た・です
    - 活用しない → **10 助詞**
          〈例〉が・は・を・に

令和６年度版　ことばのきまり　中学３年

編集　「ことばのきまり」編集委員会
三河教育研究会

刊行　公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話〈0564〉51－4819

印刷　あいち印刷株式会社

※無断で複写・複製することを禁じます。

見本

３年　　組　　番

氏名